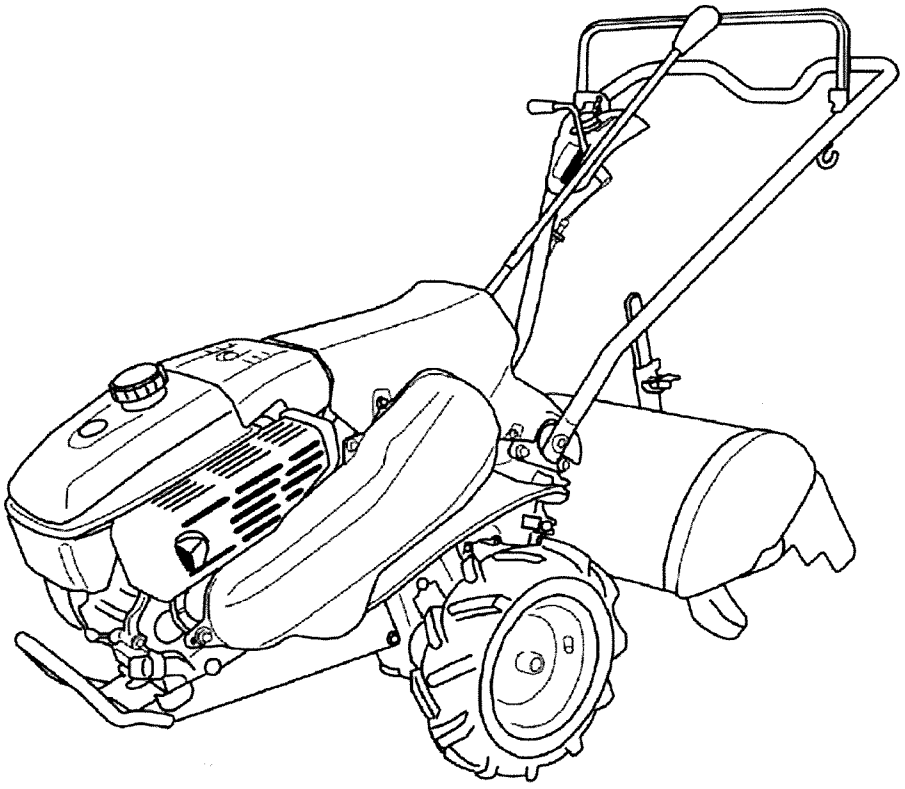
ヘルパー

ロータリ専用機

取扱説明書

KR 6000(-U) 7000(-U)



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

エンジン停止

チョークレバー

ガソリン燃料

専門用語の説明

ON 燃料コック[開]

OFF 燃料コック[閉]

本製品の使用目的について

本製品は、農業機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、機種及び仕様の区分によっては付いていない装置の説明もあります。

●ロータリカバー開閉仕様・・・U仕様

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて充分理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な事項です。よく読んで必ず守ってください。
なお， ⚠ 表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

危　険

注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

警　告

注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

注　意

注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重　要

注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものをしまします。

補　足

その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠ 安全に作業するために

運転する前に..... Ⅰ
始動するとき..... Ⅱ
移動，作業するとき..... Ⅲ
作業が終わったとき..... Ⅴ
点検・給油・整備等に..... Ⅵ
表示ラベルと貼付け位置..... Ⅷ
表示ラベルの手入れ..... Ⅷ

サービスと保証について

各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称.....2
各部の名称とはたらき.....3
主クラッチレバー.....3
デフロックレバー.....3
主変速レバー.....4
エンジンスイッチ.....5
リコイルスタータ.....5
燃料コックレバー.....5
チョークレバー.....6
スロットルレバー.....6
燃料キャップ.....6
マフラ.....6

作業前の点検

調子よく作業するために.....7
安全に作業するために.....9

運転のしかた

新車時の扱いかた.....10
ならし運転(最初の10時間まで).....10
エンジンの始動と停止のしかた.....10
始動のしかた.....10
停止のしかた.....12
発進のしかた.....13
移動輪の使いかた.....13
ハンドル高さの調節.....14

作業のしかた

上手な作業のしかた.....15
作業前の準備.....15
耕うん作業手順.....15
旋回手順.....15
各部の調節.....16
培土機の取付けかた.....16
輪距の調節のしかた.....16
作業ごとの設定要領.....17
[KR6000・KR7000].....17
[KR6000-U・KR7000-U].....18

ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について.....24
日常の手入れ.....24
エンジンオイルの交換.....24
ミッションオイルの交換.....24
エアクリーナエレメントの清掃.....25
燃料フィルタの清掃.....26
ファンカバーの清掃.....26
点火プラグの調節・清掃・交換.....26
主クラッチケーブルの調節.....27
デフロックケーブルの調節.....28
スロットルレバーの調整.....28
耕うん爪の取付けかた.....29
タイヤの空気圧.....31
使用後の手入れ.....31
エンジン始動不良を防ぐために.....31
長期格納時の手入れ.....31
燃料の抜き取り.....32
洗車時の注意.....32

ロータリ専用機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬..33

付表

主要諸元.....34
標準付属部品.....35
主な消耗部品一覧表.....36

トラブルと処置

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠ 危 険 ・⚠ 警 告 ・⚠ 注 意 ・ 重 要 ・ 補 足 としてそのつど取上げています。

運転する前に

■運転前に

●機械を動かす前に，取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示マークをよく読み，理解した上で運転してください。

●機械の運転操作，特に主クラッチ[**切**]はすばやくできるよう，よく練習し，じゅうぶんに慣れてから作業してください。

■使用する人は

次の項目に該当する場合は，機械を使用しないでください。

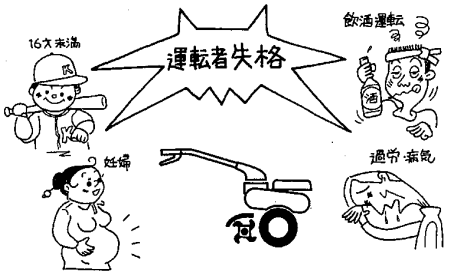
●本書及びラベルの内容が理解できない人

●視力不足などのため表示内容が読めない人

●飲酒時や体調が悪いとき，また妊娠中の人

●16才未満の人

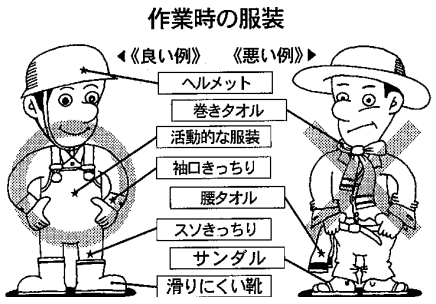
●ハンドルを操縦する体力に自信のない方



■使用する人の服装は

●回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になるだふついた服，腰タオルなどはやめてください。

●ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。



■周囲の安全

●子供，ペットを近づけないでください。

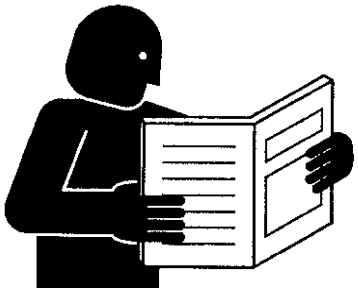
●見物人を近くに寄せないでください。

●共同作業者がいるときは，互いに注意してください。

■他人に貸すときは

●事前に運転のしかたを教え，［**取扱説明書**］を必ず読んでもらってください。

●本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



■給油・注油するとき［火気厳禁］

●燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し，規定量以上入れないでください。

●エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。

●煙草を吸ったり火気を近づけないでください。

●給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。

●燃料補給後，給油キャップはもれないようしっかり締めてください。

●こぼれた燃料はふき取ってください。

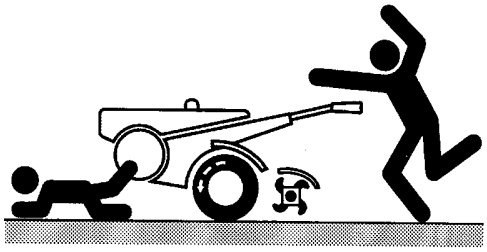
始動するとき

■エンジンを回すとき

●必ず本機，（ロータリ）の主クラッチレバーを[**切**]り、主変速レバーは[**中立**]にして，付近に人（特に子供）を近づけないでください。

●もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。

●リコイルスタータを引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。



■排気ガスに注意

●換気が不じゅうぶんな所では，暖機運転や作業はしないでください。排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

●ハウス内では排気ガスが充満しないように，じゅうぶんに換気を行なってください。
排気ガスによる中毒を起こし，死亡事故にいたるおそれがあります。

移動，作業するとき

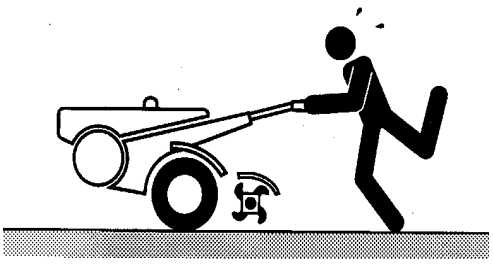
■発進するとき

●速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。

●車速の最低速で主クラッチレバーの[**入**]はゆっくり[**切**]はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。

●小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。

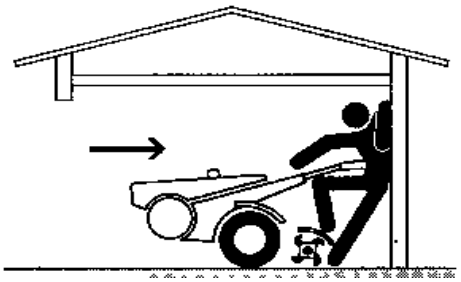
●後進の発進時は，ハンドルが持上がりやすいので，エンジンの回転を下げ，しっかりハンドルを押えながらゆっくり主クラッチを入れてください。



■ハウス，車庫等での移動

●後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転数を下げて後進してください。

●屋根の低いハウス内や車の荷台では，エンジンを停止して手で引き出してください。

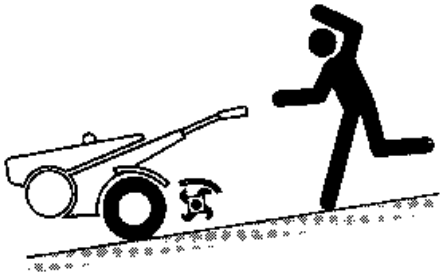


■坂道を移動するとき

●坂道，ほ場の出入り，あぜの乗越えなどの途中で主クラッチを[**切**]ったり，主変速を[**中立**]にすると，機体が思わぬ方向に進み危険です。

●変速操作は，機体が平坦な場所以外では行わないでください。落下や転倒のおそれがあります。

●坂道や凸凹，カーブの多い路上で高速運転すると，転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。

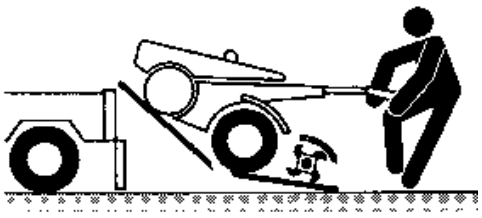


■運搬・積降ろしするとき

●積込み・積降ろしは，平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。

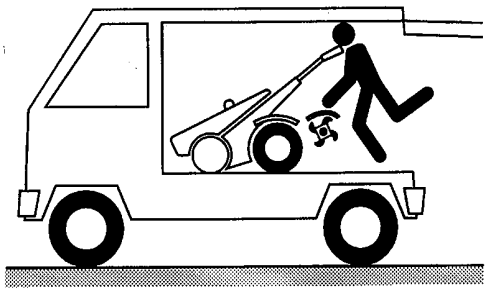
●デフロックレバーは[**直進**]の位置にしてください。[**旋回**]の位置にすると思わぬ方向に進むことがあり危険です。

●アユミ板はすべり止めのついた，機体重量に耐えるもので，トラックの荷台の高さ[1]に対しアユミ板の長さ[**4以上**]のものを使用し，確実に固定してください。



●足元に注意し，車速は最低速で，上りは**[前進]**下りは**[後進]**で行ない，途中で主クラッチを切ったり，変速操作をしないでください。落下・転倒のおそれがあります。

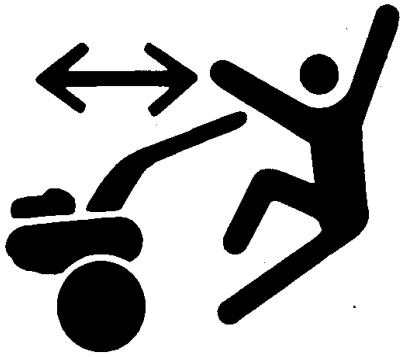
●車などで運搬するときは，荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので，必ず荷台に天井がない車を使用してください。



●燃料コックレバーを必ず**[閉]**にし，給油キャップはもれないようしっかり締めてください。燃料もれが発生し，火災や爆発のおそれがあります。

●機体の固定は前部プロテクター・抵抗棒・ハンドルの3箇所を使ってロープを掛けて行ない，確実に床に固定してください。

■耕うん作業するとき



●いつでも主クラッチ**[切]**れる姿勢で運転してください。爪軸(ロータリ)作業開始時や作業中，機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがあります。

●作業前に，ほ場の状態をよく確認して，石・材木・針金・空カン・空ビンなどを取除いてください。

●作業前，作業後には機械の整備・点検を行ってください。特にエンジン本体，マフラ周辺，配線部にワラくずなどがたまっていると，火災の原因になります。

●周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると，発火するおそれがあります。

●ほ場の中や周囲にある支柱，植木や段差などは，作業前に位置を確認し，後進時にはさまれたり，転倒・転落しないよう安全な距離を保って，近づかないよう作業してください。

●ハウスや小屋の中，果樹園など障害物がある場所では周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進，旋回するときは，エンジン回転を下げ，ハンドルをしっかり押えて行なってください。

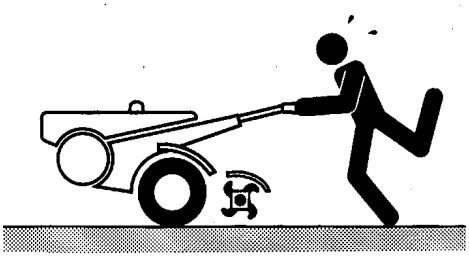
●長いワラ・草など作業に支障のあるものは，作業前に取除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し，転倒などのおそれがあります。

■回転している爪に注意

●ハンドル部を持上げ旋回するとき，足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪にまきこまれるおそれがあります。

■ほ場が硬いとき

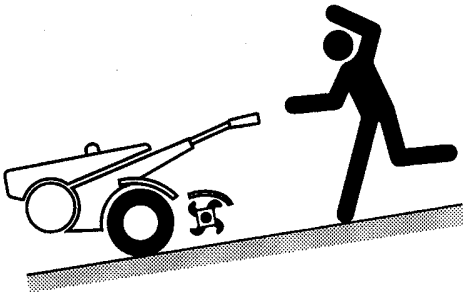
●硬いほ場では車速を遅めにして，耕深も浅めで作業を行なってください。機体が飛出すおそれがあります。



■機械から離れるとき

●エンジンは必ず停止させ，駐車ブレーキをかけ平坦で安定した場所に停車してください。移動・落下するおそれがあります。（やむなく傾斜地に止める時は車止めをしてください）

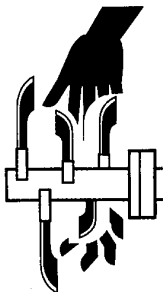
●周囲に草・ワラなど燃えやすいものがある場所に止ないでください。火災のおそれがあります。



作業が終わったとき

■掃除をするとき

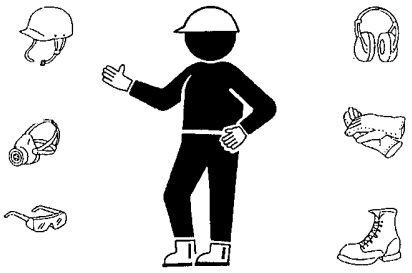
●車軸（ロータ）・ツメジク（ロータリ）等に付いた草・ワラ・泥土等を取除くときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンは停止してください。



点検・給油・整備時に

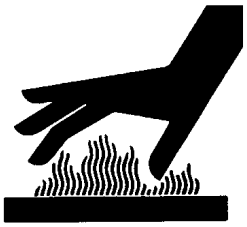
■点検・整備時の服装と保護具

●点検整備にはヘルメット，安全靴と安全な服装を着用してください。
作業内容によっては保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
各保護具は使用前に機能を確認してください。



■点検・整備前の準備

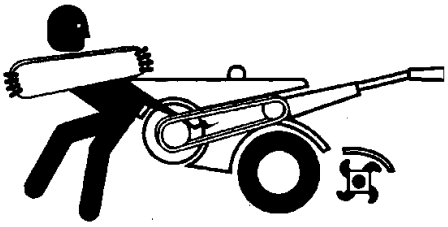
●点検，整備，アタッチメントの着脱などは，機械が転倒しない平坦な所に機械を安定させて，エンジンを止め，高音部が冷めてから行なってください。



■カバー類は必ずつける

●ベルトカバーなどの防護カバーを取外すときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。

●取外したカバー類は元通りに組付けてください。

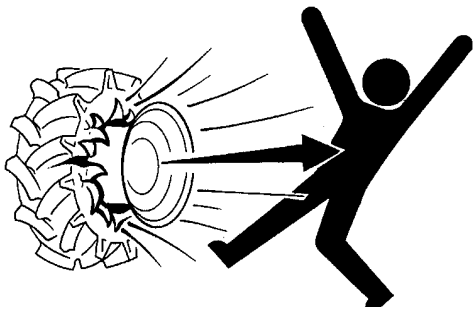


■タイヤの整備

●タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。

●タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

●タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

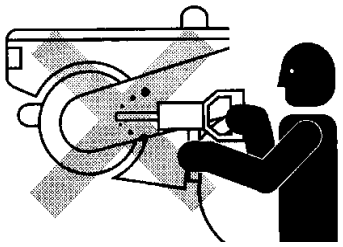


⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください

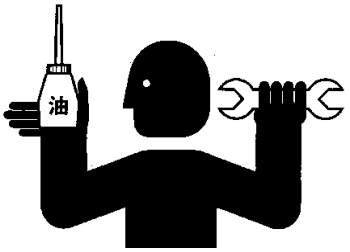
■機械の改造禁止

●機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



■１年毎の定期点検を

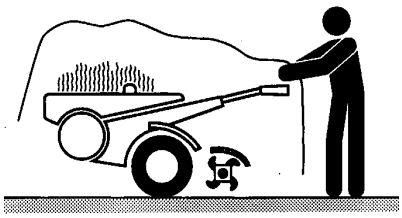
●機械の整備不良による障害事故など未然に防止するため，１年毎に定期点検・整備を受け，特に燃料パイプは２年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。



■格納するとき

●機体に保管用カバーをかけるときは，火災予防のため高音部が冷めてから行なってください。

●火災防止のため，草・ワラ等可燃物のあるところでの保管はしないでください。



■産業物の処理について

●廃棄物をみだらに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

●機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

●地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

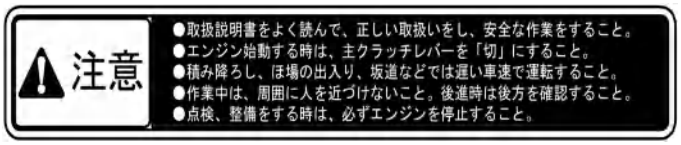
●廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

■夜間作業の禁止

●本機は夜間作業灯を装備していませんので，夜間作業はしないでください。思わぬ事故になるおそれがあります。

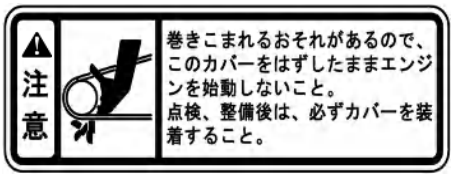
表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番　236100000451000

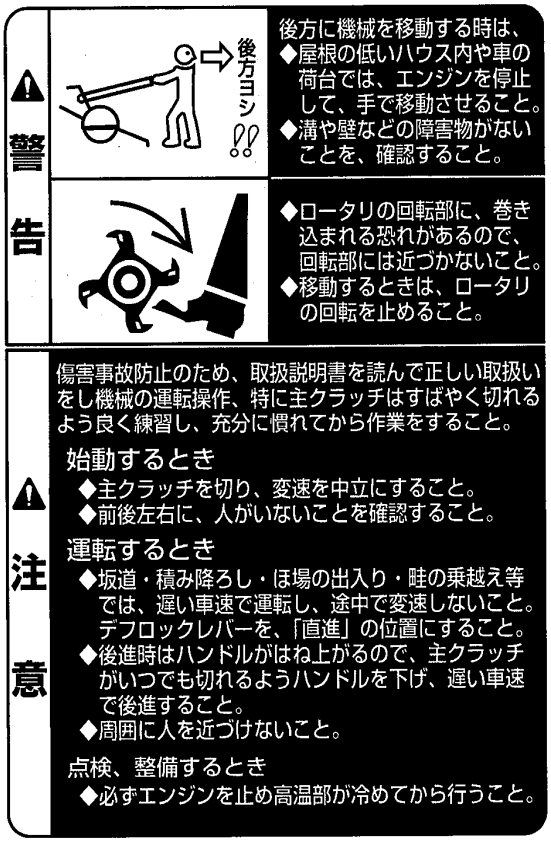


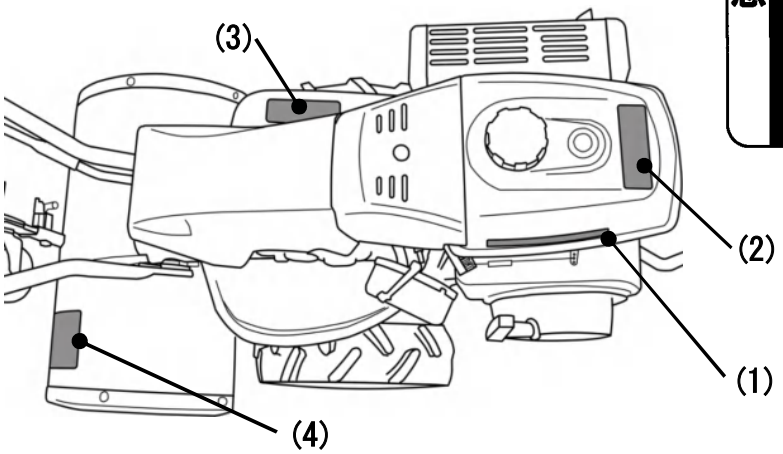
(2) 品番　286350000804001

(3) 品番　236100000452002



(4) 品番　286350000807000





表示ラベルの手入れ

●ラベルは，いつもきれいにして傷つかないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

●高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれてしまうおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

●破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

●新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後も，元の位置に貼ってください。

●ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換する時は，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

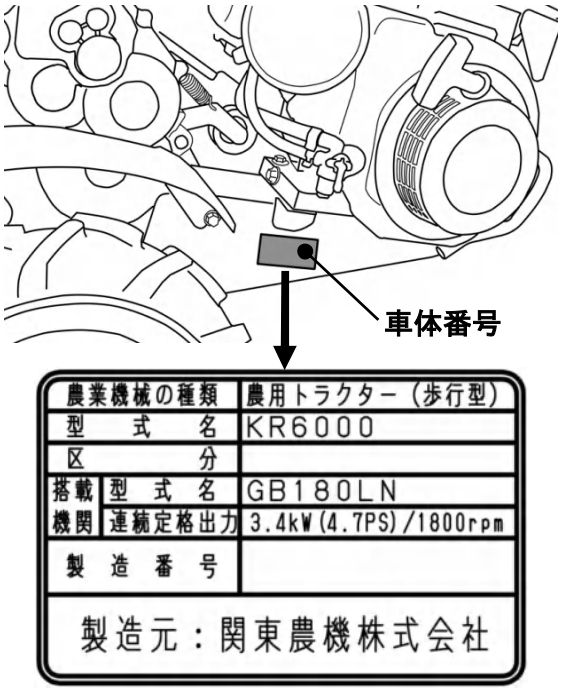
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によご覧ください。

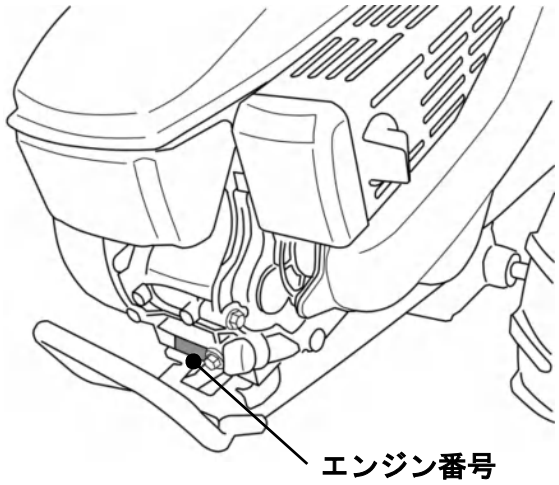
■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**[ご相談窓口]**を設けておりますので，気軽にご相談ください。

その際　(1) 型式名・販売型式名と車体番号
　　(2) エンジン番号
をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。





警　告

＊機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか，人身事故にもつながるおそれがあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年といたします。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

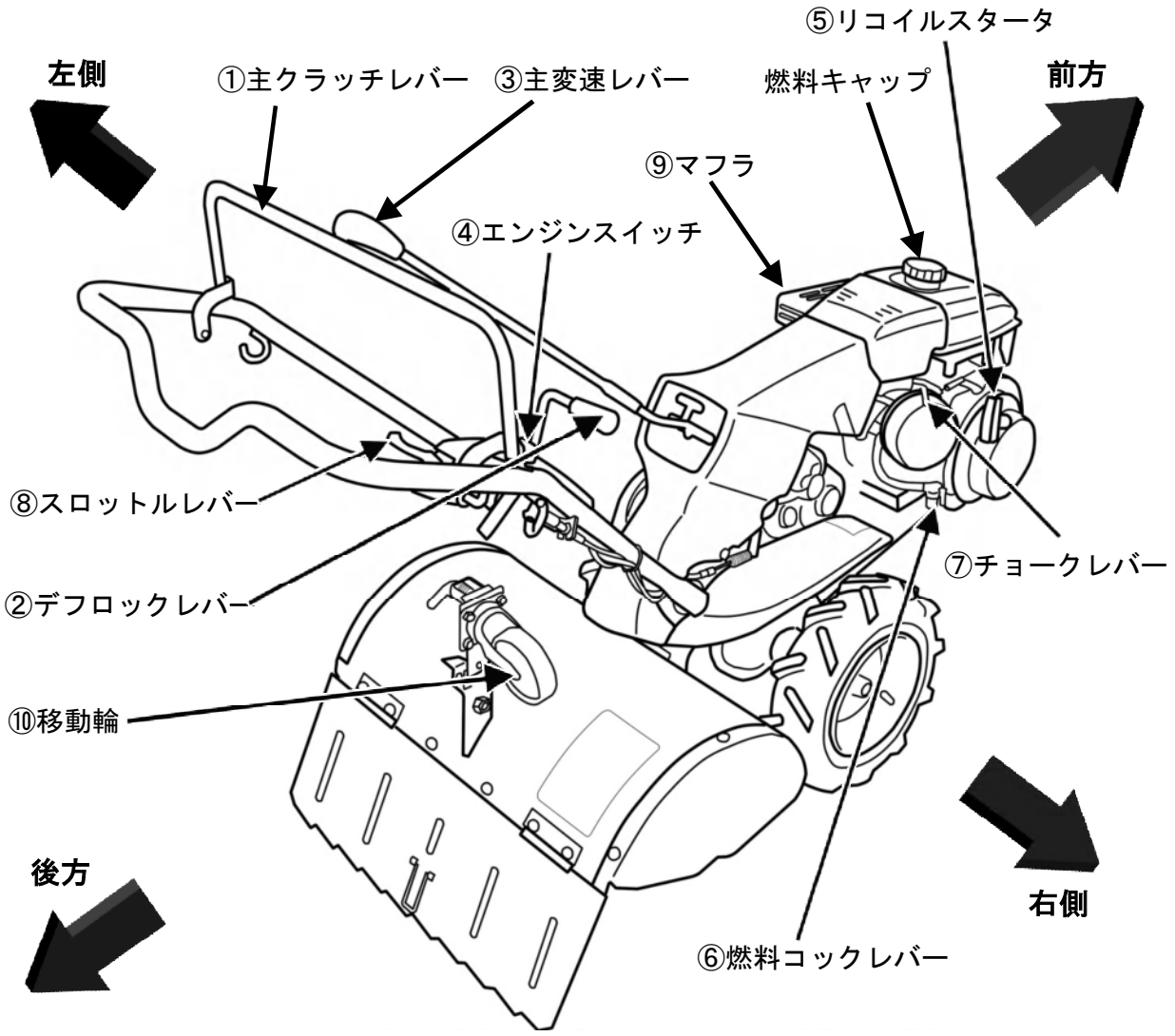
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

警　告

＊トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると，道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは，自動車(トラック)に積んで運搬してください。

各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称



	参照ページ
（１）主クラッチレバー	3
（２）デフロックレバー	3
（３）主変速レバー	4
（４）エンジンスイッチ	5
（５）リコイルスタータ	5
（６）燃料コックレバー	5
（７）チョークレバー	6
（８）スロットルレバー	6
（９）マフラ	6
（10）移動輪	13

各部の名称とはたらき

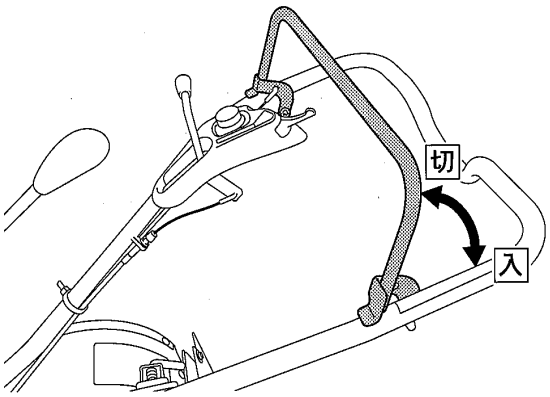
■主クラッチレバー

注　意

＊傾斜地や後進するときなどは，ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので，主クラッチレバーをゆっくり操作してください。
＊狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし，後方や上方などまわりの安全を確かめ，ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。
＊危険を感じたら，すぐに手を離してください。機械が停止します。

エンジンからの動力を断続します。

1. レバーを握るとクラッチが**[入]**ります。
2. レバーを離すとクラッチが**[切]**れます。

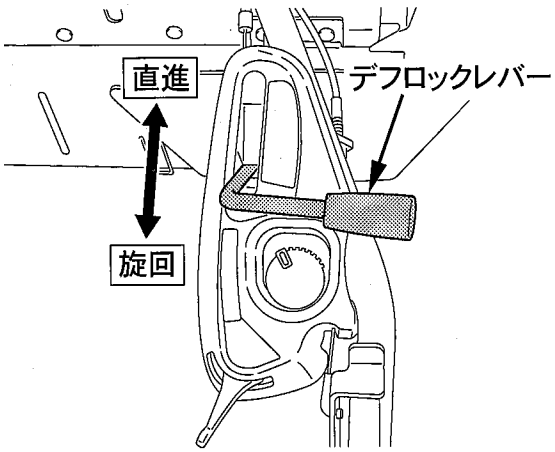


■デフロックレバー

注　意

＊[旋回]の位置でトラックへの積降ろしや坂道移動をすると，思わぬ方向にハンドルを取られる場合があり危険です。発進する前に必ずレバーを[直進]の位置にしてください。

1. ほ場の耕うん・うね立て作業時はデフロックレバーを**[直進]**の位置にします。
   [直進]位置では左右の車輪が同回転し、安定した走行が行なえます。
2. ほ場での旋回時はデフロックレバーを**[旋回]**位置にします。
   左右の車輪に回転差が生じ旋回が容易に行えます。



各部の名称と装置の取扱い

■主変速レバー

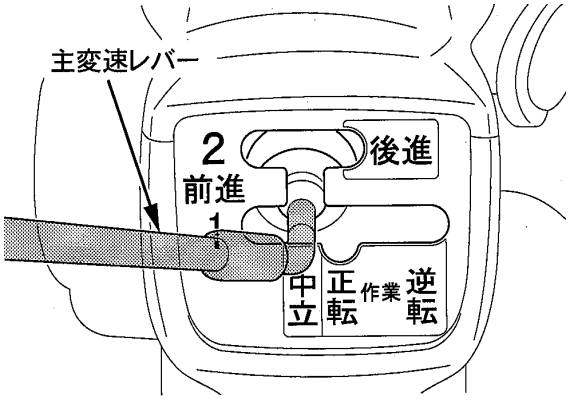
注　意

＊エンジンを始動する前に，必ずレバーを[中立]にしてください。
＊変速操作は主クラッチを[切]ってから行なってください。
＊走行中は変速しないでください。

変速は案内板の表示内容に合わせてシフトます。

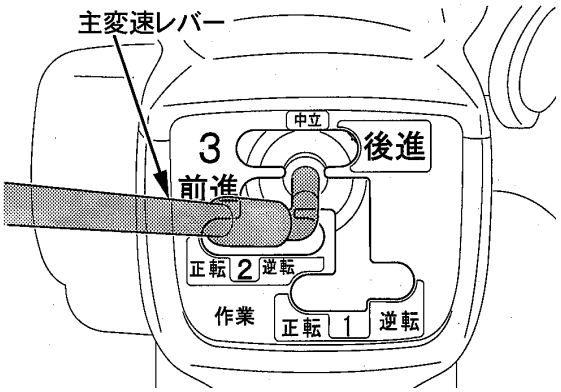
[KR6000，KR6000-U]

1. 変速は前進２段，後進１段です。
2. ロータリは，作業・正転(前進１速)で[**正転**]，作業・逆転(前進1速)で**[逆転]**です。



[KR7000，7000-U]

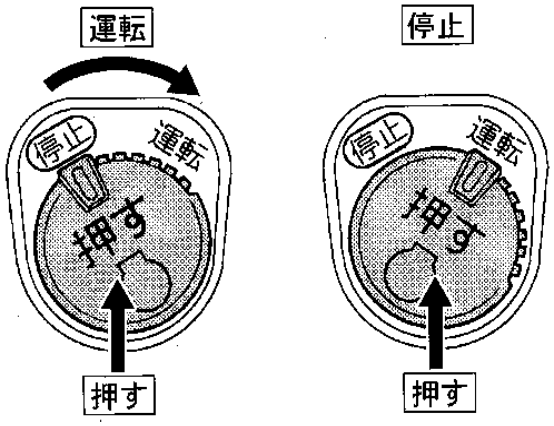
1. 変速は前進３段，後進１段です。
2. ロータリは，作業・正転(前進１速)で[**正転**]，作業・逆転(前進１速)で**[逆転]**，作業・正転(前進２速)で**[正転]**，作業・逆転(前進２速)で**[逆転]**です。



■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に用います。

1. スイッチを押しながら**[運転]**位置に回すと始動が可能です。
2. スイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り，エンジンが停止します。



補　足

＊非常時にはエンジンスイッチを押してください。エンジンが停止します。

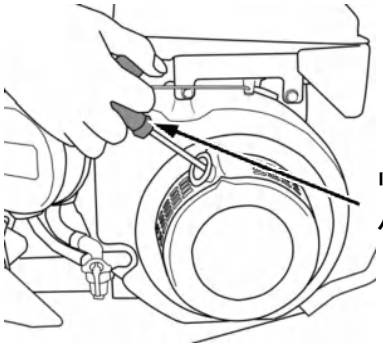
■リコイルスタータ

注　意

＊リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。障害事故のおそれがあります。

エンジンを始動します。

主クラッチレバーを**[切]**にし，リコイルを引っ張ると始動します。



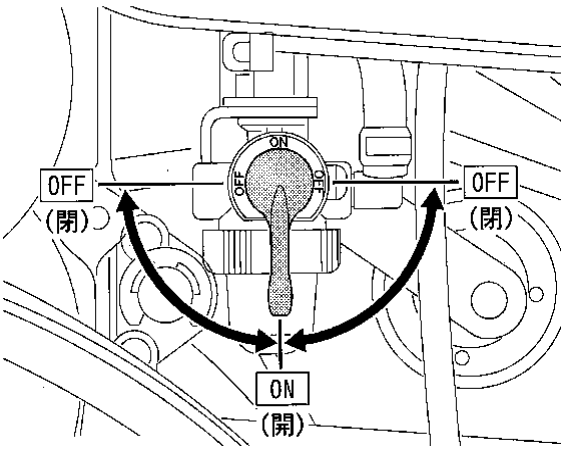
補　足

＊主クラッチレバーは必ず**[切]**の状態にして，主変速レバーを**[中立]**にして始動してください。

■燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへ燃料の**[供給]・[停止]**をします。エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めます。

1. **[OFF]（閉）**　燃料停止
2. **[ON]　（開）**　燃料供給



重　要

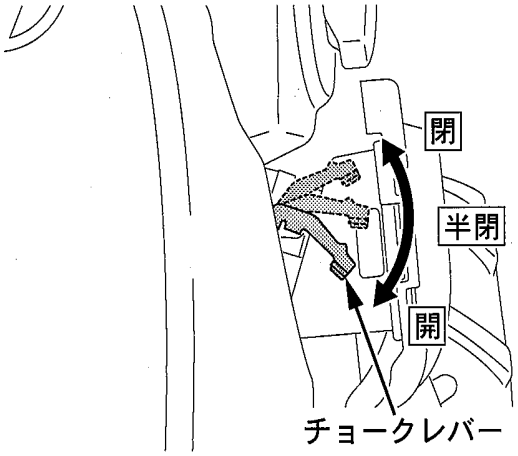
＊コックを開いた状態で，前に倒したり車両で運搬すると，エンジン始動が困難になる場合があります。

各部の名称と装置の取扱い

■チョークレバー

エンジンがかかりにくい時に使用します。

1. **始動時**，**[閉]**位置にレバーを切り換えます。
2. **始動後**，**[開]**位置にレバーを切り換えます。



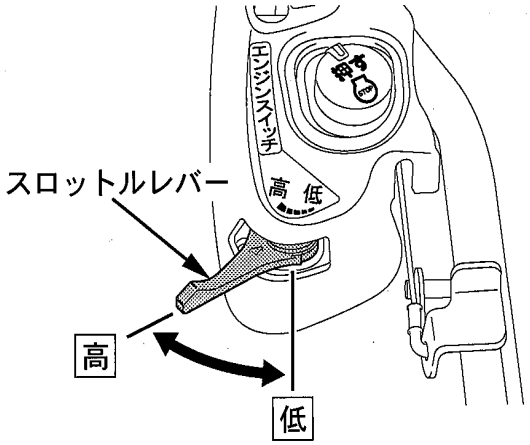
補　足

＊**[半閉]**位置は，寒冷地での暖気運転時などに使用します。

■スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。

1. **[高]**の方向に回すと回転が上がります。
2. **[低]**の方向に回すと回転が下がります。



■燃料キャップ

警　告

＊給油するときはエンジンを停止し，エンジンやマフラが充分冷えてから行なってください。
＊火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
＊給油後，燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください。
＊上記の作業をおこたると，爆発・火災のおそれがあります。

自動車用レギュラーガソリンを使用します

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	3.6L

重　要

＊燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないよう，注意してください。

■マフラ

注　意

＊マフラに手でふれないでください。ヤケドをするおそれがあります。

作業前の点検

注　意

＊平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
＊点検中はエンジンを停止してください。

調子よく作業するために

（詳細は24ページの［**ロータリ専用機の簡単な手入れと処置**］を参照）

警　告

＊給油するときはエンジンを停止し，エンジンやマフラが充分冷えてから行なってください。
＊火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
＊給油後，燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください。
＊上記の作業をおこたると，爆発・火災のおそれがあります。

◆燃料

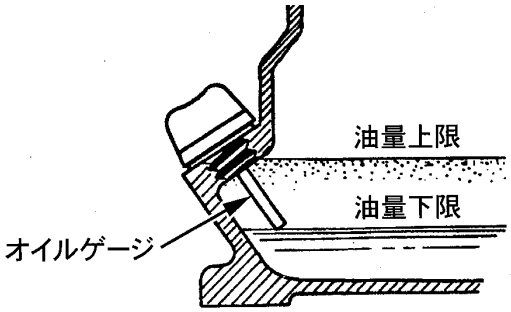
- ●ロータリ爪設置状態で燃料を入れてください。
- ●自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- ●タンク容量…約3.6Ｌ(赤色ゲージ以下にします。)

◆エンジンオイル

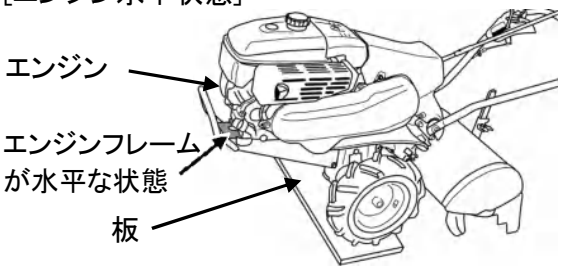
- ●エンジンを水平にして，オイルゲージで規定量あるか点検します。
- ●不足している場合は，エンジンオイルを補充します。（エンジンオイル　10W-30）

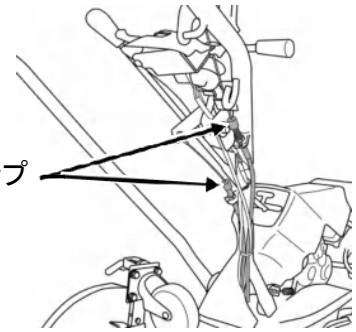
◆主クラッチケーブル・デフロックケーブル

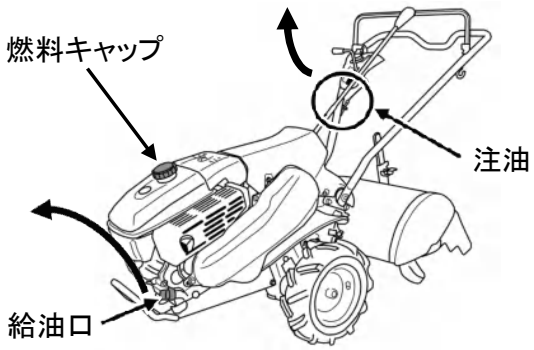
- ●ケーブルのキャップを外し，エンジンオイルを注油します。



[エンジン水平状態]







作業前の点検

◆ミッションオイル

●エンジン水平状態で，オイルが検油窓の中間位置まであるか点検します。
●不足している場合は，ギヤオイルを補充します。
（ギヤオイル　SAE90#）

◆エアクリーナ

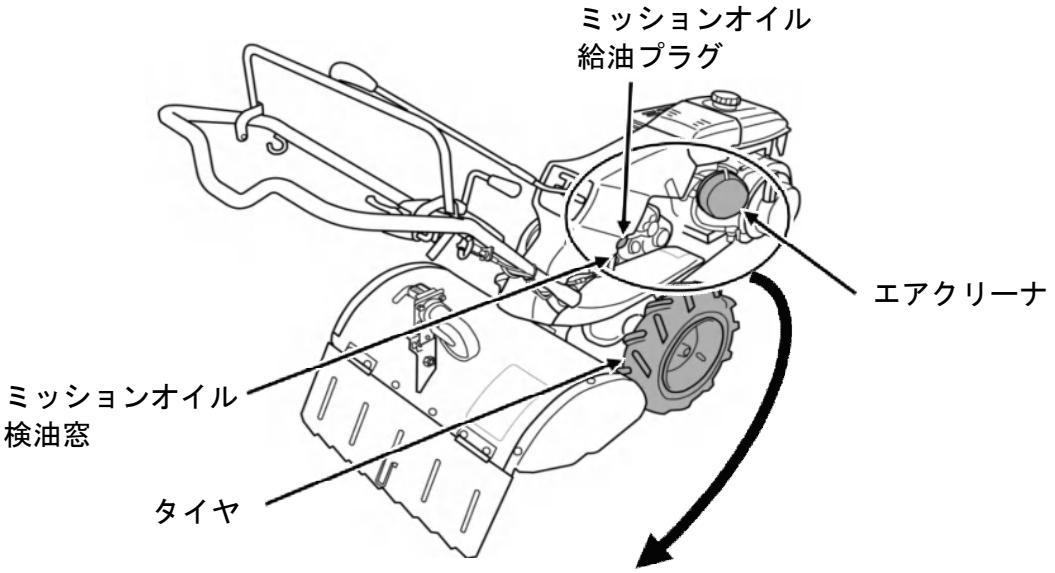
●エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

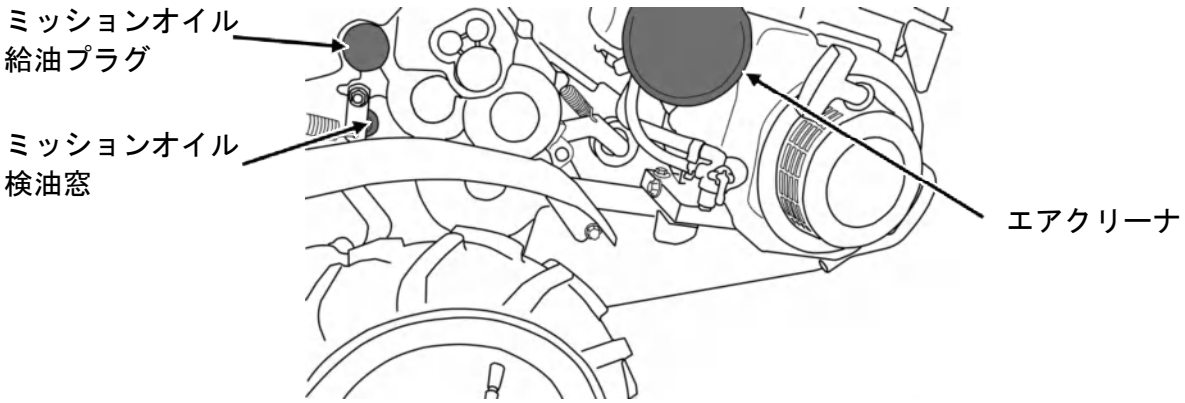
◆タイヤ

●空気が抜けていないか，また損傷が無いか点検します。

◆その他

●エンジン，ミッションなどから油もれがないか点検します。
●各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
●各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。





重　要

＊水やごみを混入しないようにしてください。

安全に作業するために

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で定められています。）

◆主クラッチレバー　●クラッチの[入]・[切]が確実に行なえるか点検します。
デフロックレバー　●デフロックレバーの[直進]・[旋回]が確実に行なえるか点検します。
●不良の場合は調整・注油します。

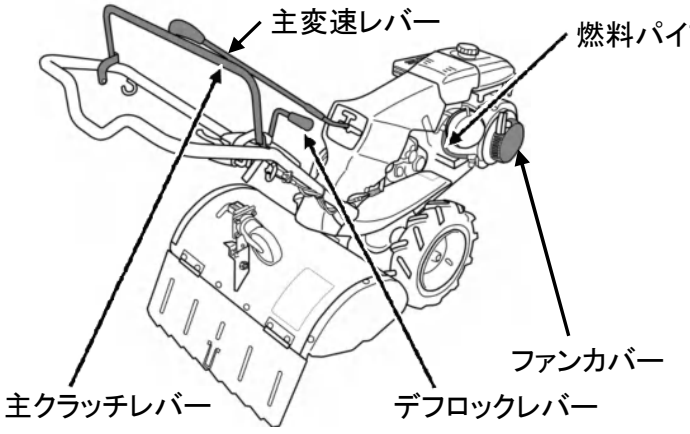
◆主変速レバー　●変速が案内板の表示位置で確実に行なえるか点検します。

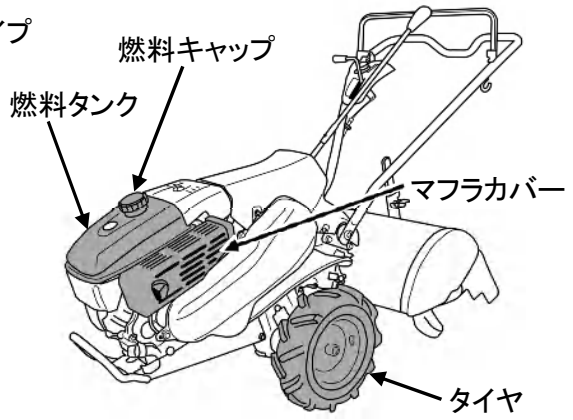
◆電気配線　●被覆が溶けたり破れていないか，また配線がはさまれていないか点検します。

◆エンジン周辺部　●ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ガソリンもれ　●タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。
もれがある場合は，修理点検します。
●自動車用レギュラーガソリンを補給します。
●タンク容量…規定量（赤ゲージ位置）以上入れないようにします。
●給油後，ガソリンがもれないよう確実に燃料キャップを締めます。

◆タイヤ空気圧　●空気が抜けていないか，又，損傷がないか点検します。
●適正空気圧…120kPa（1.2kgf/cm）





運転のしかた

新車時の扱いかた

■ならし運転（最初の10時間まで）

この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用はさけ無理をさせないようにして下さい。

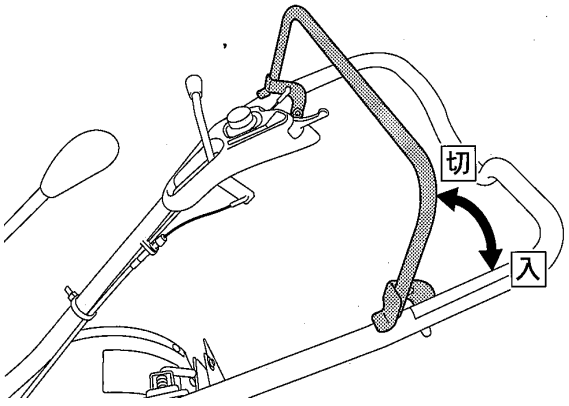
エンジンの始動と停止のしかた

■始動のしかた

注　意

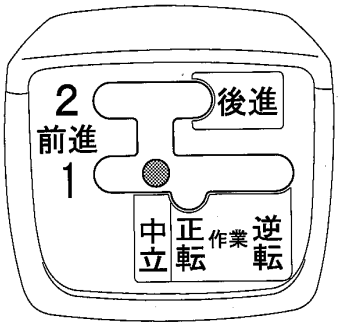
＊マフラの排気出口方向に，燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
＊リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
＊エンジンの運転中は，危険ですからマフラやそのほか操作レバー以外の物には，触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
＊夜間運転はしないでください。
＊エンジンを始動するときは，主クラッチレバーを必ず[切]にしてください。

1. 主クラッチレバーを**[切]**にします。
（手を離す）

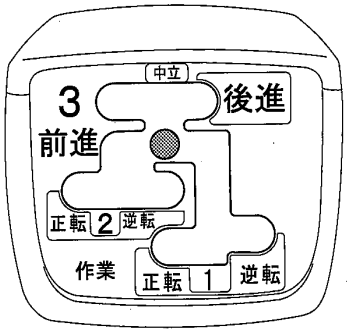


2. 主変速レバーを**[中立]**にします。

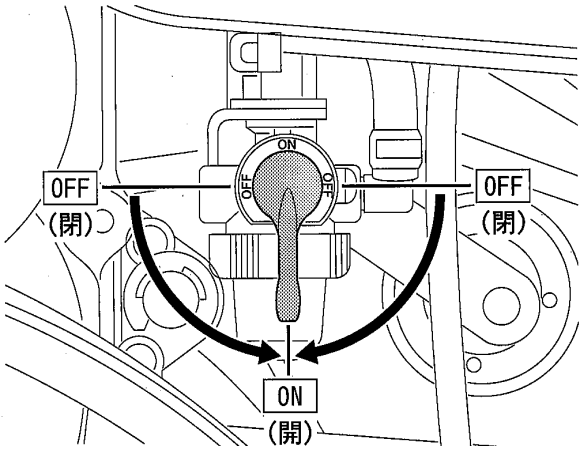
KR6000，6000-U



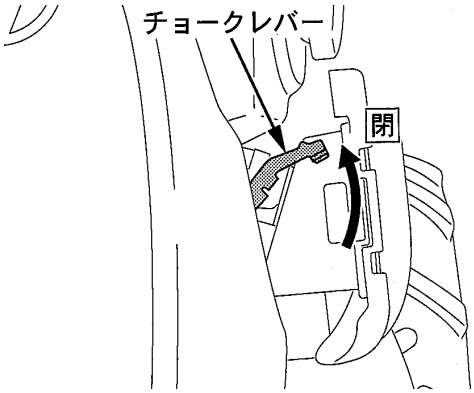
KR7000，7000-U



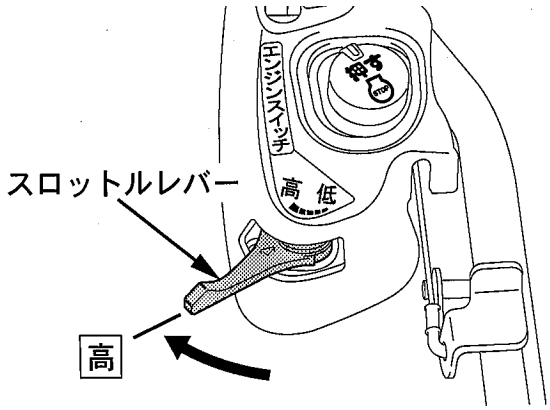
3. 燃料コックを［ON］（開）にします。



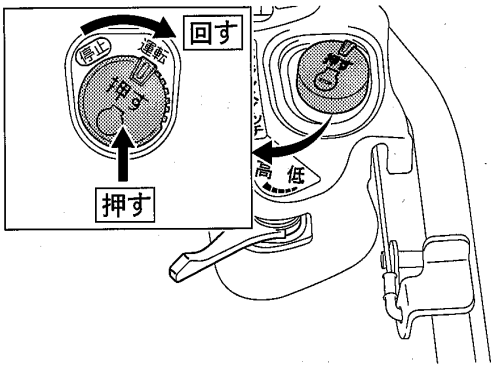
4. チョークレバーを[閉]位置に切り換えます。



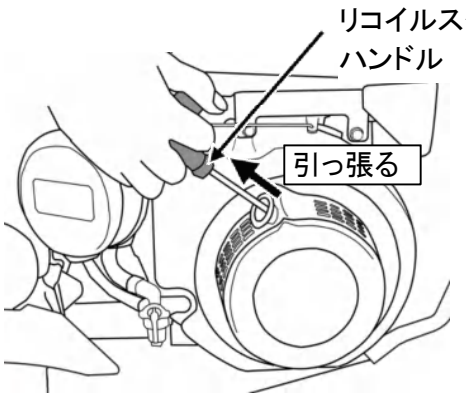
5. スロットルレバーを[高]にします。



6. エンジンスイッチを押しながら［運転］位置まで回します。



7. リコイルスタータハンドルを握って，引っ張ります。
エンジンが始動したらリコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。



8. エンジンの運転状態を確認しながら，チョークレバーを徐々に［開］の状態に戻します。

9. ２～３分暖気運転をしてから，作業を始めてください。

重　要

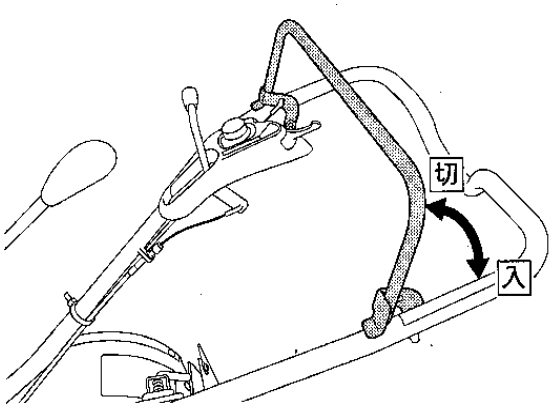
＊運転中はリコイルスタータを引かないでください。

■停止のしかた

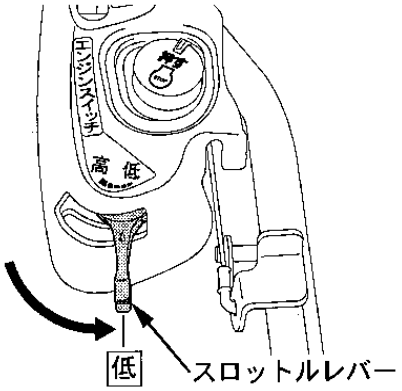
注　意

＊停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを［**切**］にします。（手を離す）

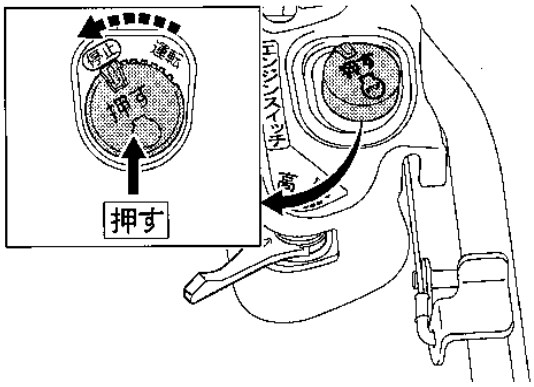


2. スロットルレバーを[**低**]にします。

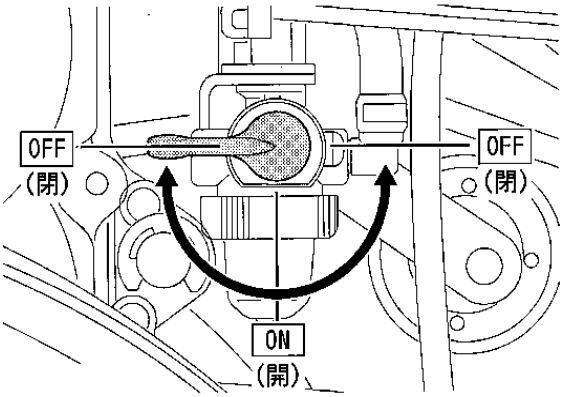


3. 主変速レバーを[**中立**]にします。（詳細は［**始動のしかた**］10ページを参照）

4. エンジンスイッチを押すと左に回って[**停止**]位置に戻り，エンジンが停止します。



5. 燃料コックを[**OFF**]（**閉**）にします。



重　要

＊コックを開いたままの状態で保管したり車両で運搬したりすると，エンジン始動が困難となる場合があります。
また，クランクケース内はガソリンが流入することもあります。

発進のしかた

警　告

＊運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
＊傾斜地での運転や後進するときなどはハンドルが持ち上がり，体や首をはさまれるなどのおそれがありますので，主クラッチをゆっくり操作してください。
＊狭い場所での運転や後進の運転については，エンジンの回転を低速にし，後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。
＊危険を感じたら，早めに手を離してください。

1. 主クラッチレバーが**[切]**の位置にある(手を離した状態)ことを確認した後，変速レバーを必要な変速位置にします。
2. 主クラッチレバーを**[入]**(握った状態)にすると発進します。
3. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

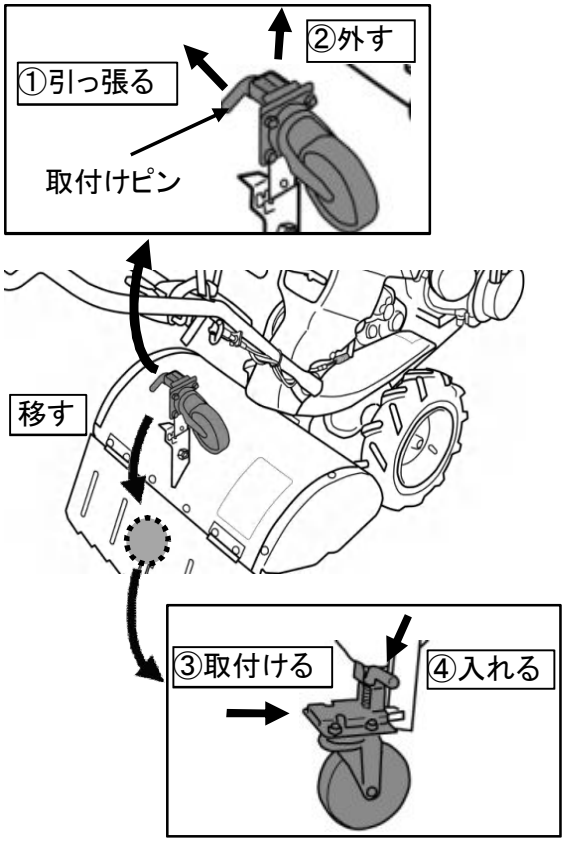
■移動輪の使いかた

注　意

＊取付・取外し作業は，必ず平坦な場所でエンジンを停止し行なってくだい。
＊ロータリに付いた土を落としてください。
＊上記の手順をおこたりますと，ロータリ部が落下して傷害事故を引き起こすおそれがあります。
＊ロータリ専用機は公道では走行できません。公道を移動するときは，トラックに積んで運搬してください。

移動時には，抵抗棒の上部にある移動輪の取付けピンを外し，抵抗棒の下部へ取付けます。このとき，機体はエンジン側を接地させてください。

［ロータリカバー固定仕様］



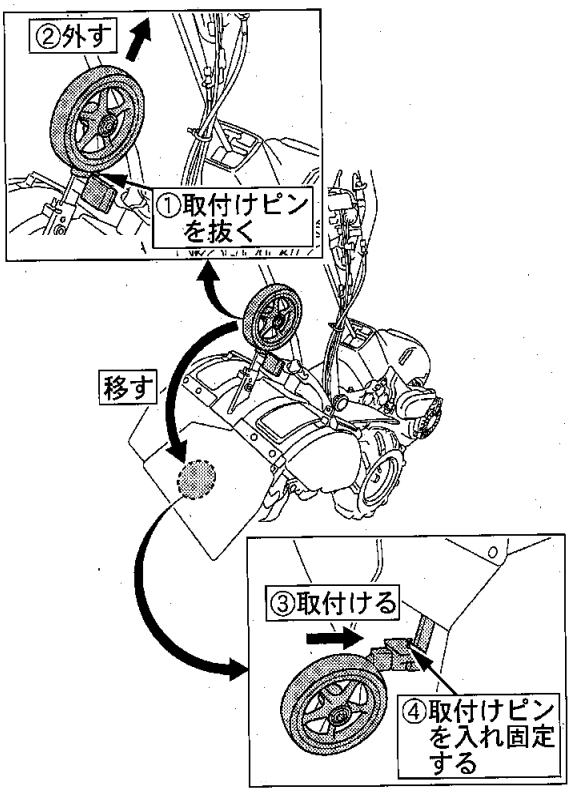
補　足

＊移動輪の取付けピンが，抵抗棒の取付穴に入っていることを確認してください。

重　要

＊移動輪をつけた状態で作業しないでください。
＊移動輪と整地板があたらないように取付けてください。

［ロータリカバー開閉仕様（U仕様）］

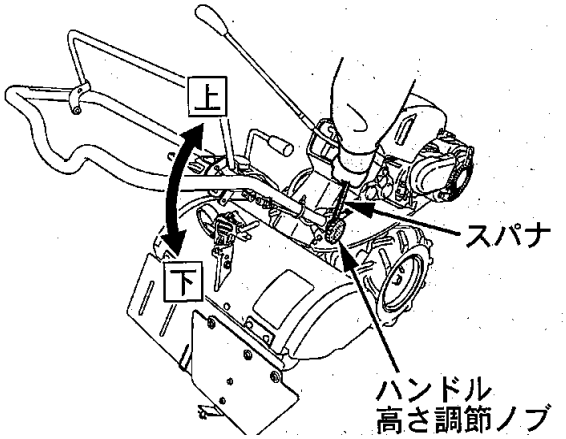


◆ハンドル高さの調節

注　意

＊平坦な場所に機械を安定させて，エンジンを必ず停止して行なってください。傷害事故のおそれがあります。

ハンドル高さ調節ノブを４～５回緩めて，高さを調節してください。ノブが固くて回せない場合は，スパナで緩めてください。ハンドルがガタつく場合は，スパナで締め付けてください。



重　要

＊調節時はハンドルを支えながらノブを緩めてください。ハンドルが自重で下がりカバーなどをいためます。

上手な作業のしかた

下記操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

■作業前の準備

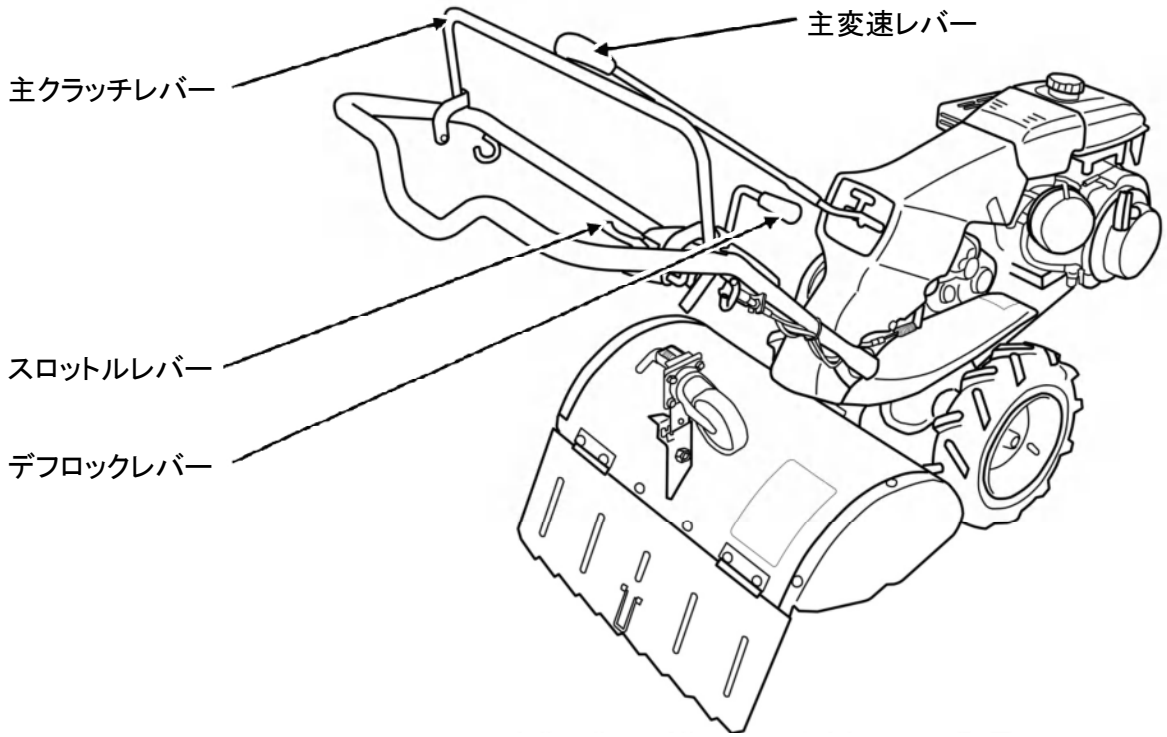
※各部の調節要領および作業ごとの設定要領を参照して，作業目的に合わせた設定を行なってください。

■耕うん作業手順

1. 主クラッチレバーを切ります。（主クラッチレバーをはなします。）
2. 主変速レバーを作業の位置に入れます。
3. デフロックレバーを直進位置にします。
4. スロットルレバーを高速にします。
5. 主クラッチレバーをゆっくり握り発進します。

■旋回手順

1. 主クラッチレバーを切ります。（主クラッチレバーをはなします。）
2. 主変速レバーを移動の位置に入れます。（ロータリ回転停止）
3. デフロックレバーを旋回位置に入れます。
4. スロットルレバーを低速にします。
5. ハンドルを持ち上げます。
6. 主クラッチレバーをゆっくり握り旋回します。
7. 旋回後［**耕うん作業手順**］の手順で耕うん作業を行ないます。



各部の調節

■培土機の取付けかた

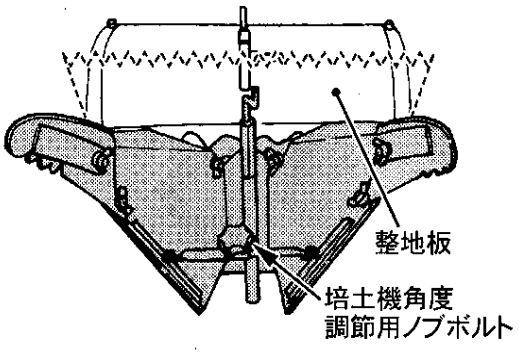
警　告

＊培土機の取付け時は，エンジンを停止してください。傷害事故のあそれがあります。

1. 機体のエンジン側を接地させ，整地板は上にあげ，フックで抵抗棒取付金具に固定します。
2. 培土機は抵抗棒を外してロックピンでセットします。詳細は培土機の取扱説明書を参照してください。
3. ロータリ［**正転**］で作業をおこなってください。

重　要

＊調節後は，ロックピンが確実に穴に入ってくるか確認してください。



＊培土機角度調節用ノブボルトで培土機の先端を少し下げ気味に調節してください

注　意

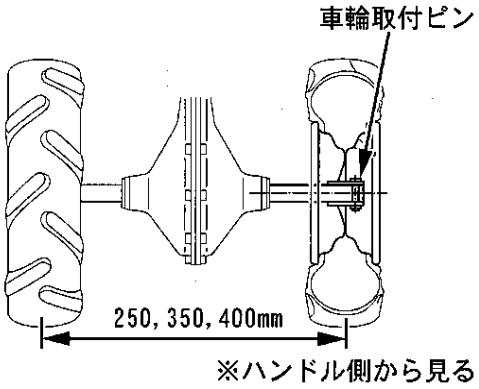
＊うね立て作業時以外は，整地板を下げて作業を行なってください。

■輪距の調節のしかた

警　告

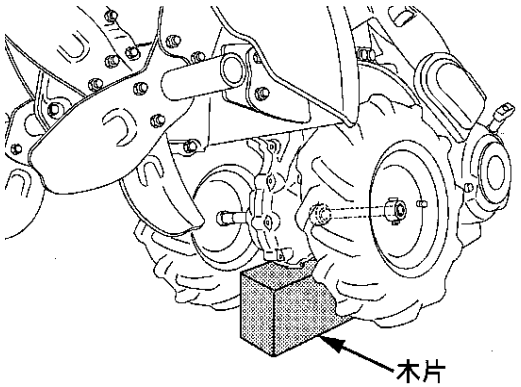
＊輪距の調節時は，エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

作業にあわせて輪距を調節してください。車輪取付ピン位置を変更することにより３段階に調節できます。



◆交換の注意

固い地面に丈夫な木材を用い，機体を安定させてから行なってください。



作業ごとの設定要領

■ [KR6000・KR7000]

警　告

＊耕深調節，移動輪の取付・取外し，爪の取付・取外し，カバーの調整時はエンジンを停止してください。損傷事故のおそれがあります。

◆耕うん作業

ほ場の状態に合わせ，ロータリを正転または逆転で作業できます。

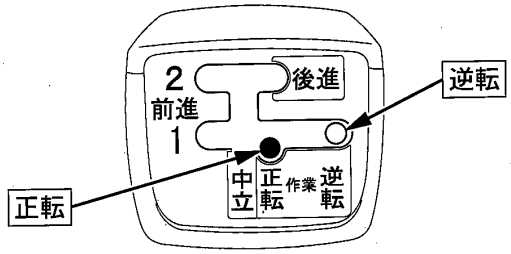
（爪の取付け方向を変える必要はありません。）

正転作業・・・通常の耕うんは正転で作業します。

逆転作業・・・ほ場が硬く，正転ではうまく耕うん出来ない時は逆転で作業します。

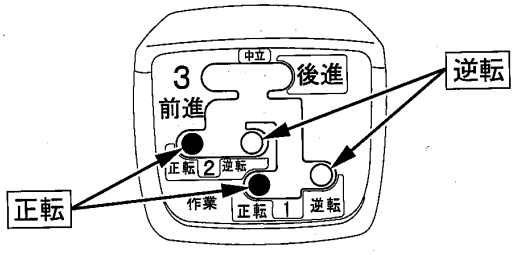
[KR6000]

正転・逆転それぞれ１速でのみ作業できます。



[KR7000]

正転・逆転それぞれ１速，２速で作業できます。



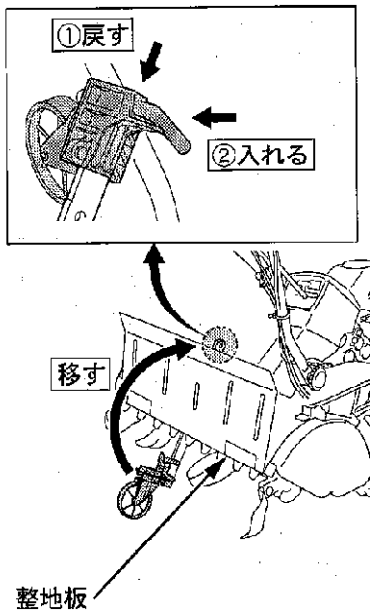
●耕深調節

抵抗棒の長さを調節して，耕深調節します。

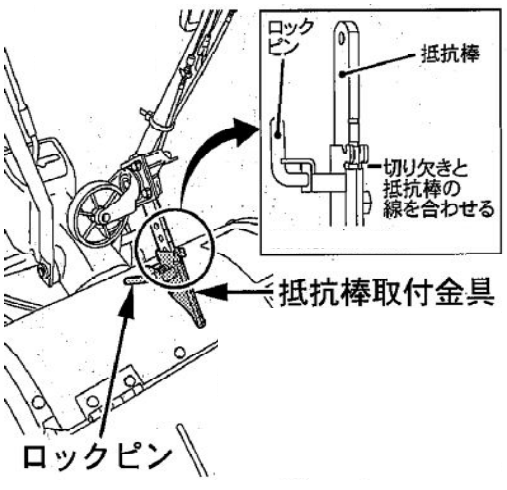
正転作業・・・上から２～３番目の線を切り欠きに合わせロックピンをセットします。

逆転作業・・・１番上の線を切り欠きに合わせロックピンをセットします。

1. 事前準備として，移動輪を抵抗棒上部に移します。



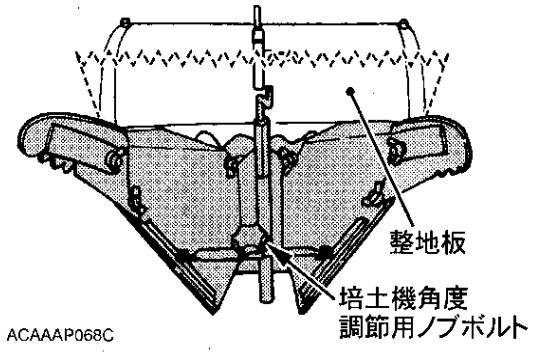
2. 作業により，適切な位置に抵抗棒をセットします。



●うね立て作業

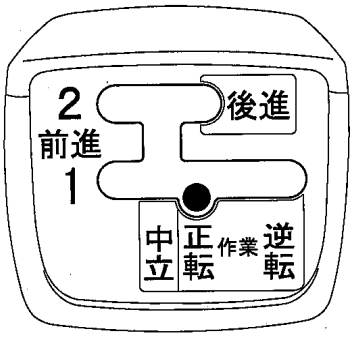
培土機を取付けることにより，うね立て作業をすることが出来ます。うね立ては，事全に耕うんを行ないほ場が軟らかくなってから，ロータリ正転で作業を行なってください。

(**[培土機の取付けかた]**16ページを参照)



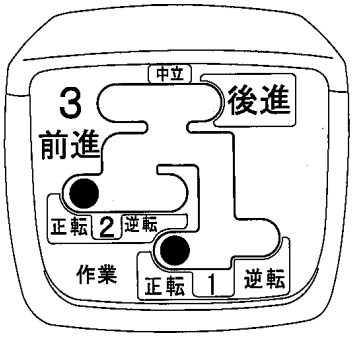
[KR6000]

正転１速でのみ作業できます。



[KR7000]

正転１速，２速で作業できます。



■ [KR6000-U・KR7000-U]

爪軸の取付け方，回転方向およびロータリカバーの調節で耕うん，うね立て作業を行なうことが出来ます。

◆耕うん作業

爪を内向きに取付け，ほ場の状態に合わせロータリを正転または逆転で作業します。なお，正転／逆転を切り替える際は必ず爪の取付け方を変更してください。

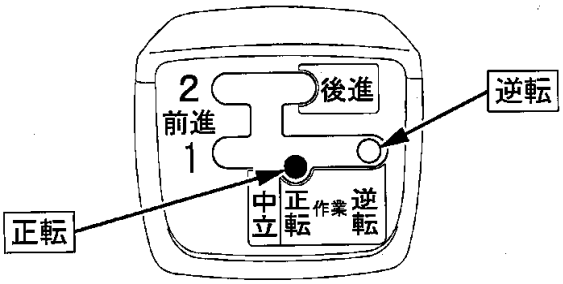
(**[爪の取付け方]**20ページを参照)

正転作業・・・通常の耕うんは正転で作業します。

逆転作業・・・ほ場が硬く，正転ではうまく耕うん出来ないときは逆転で作業します。

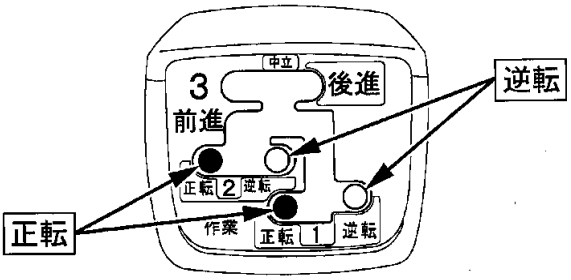
[KR6000-U]

正転・逆転それぞれ１速でのみ作業できます。



[KR7000-U]

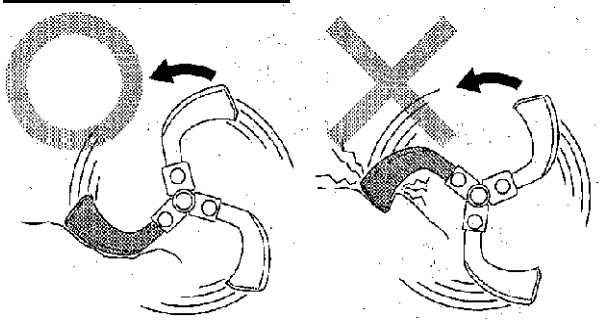
正転・逆転それぞれ１速，２速で作業できます。



重　要

＊爪軸の取付け方法と逆の回転方向で使用すると，故障や前方への飛び出しの原因となります。

爪を取付ける向き



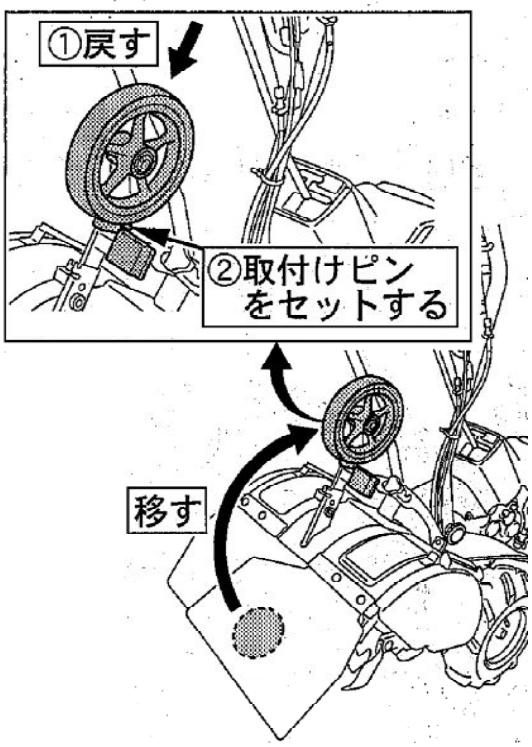
●深耕調節

抵抗棒の長さを調節して，耕深調節します。

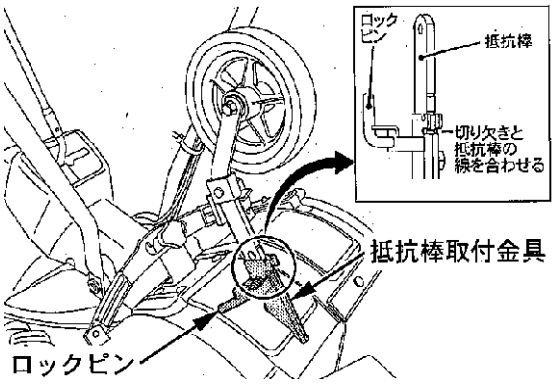
正転作業・・・上から２～３番目の線を切り欠きに合わせロックピンをセットします。

逆転作業・・・一番上の線を切り欠きに合わせロックピンをセットします。

1. 事前準備として，移動輪を抵抗棒上部の移します。

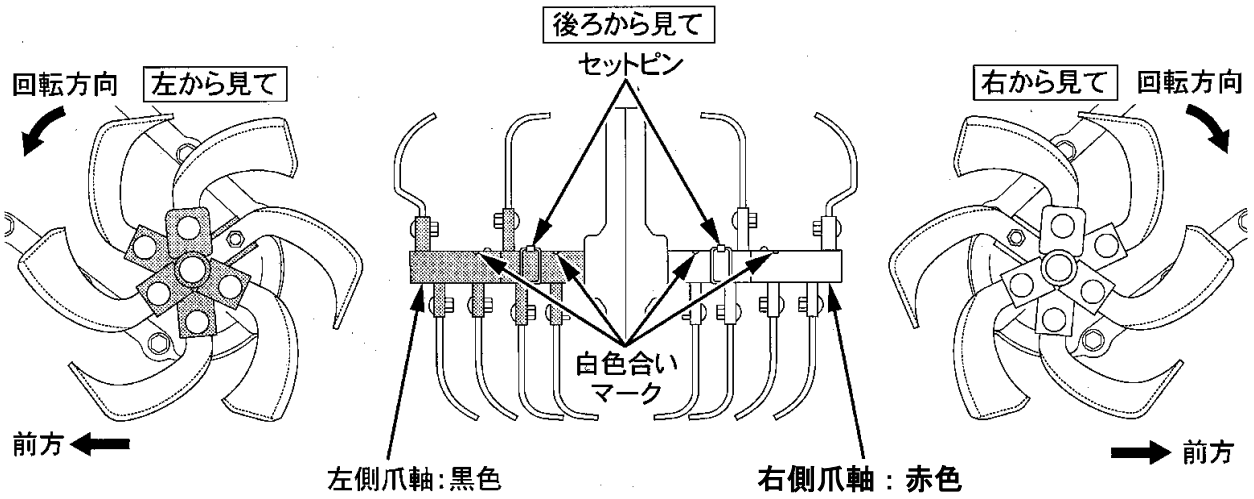


2. 作業により，適切な位置に抵抗棒をセットします。



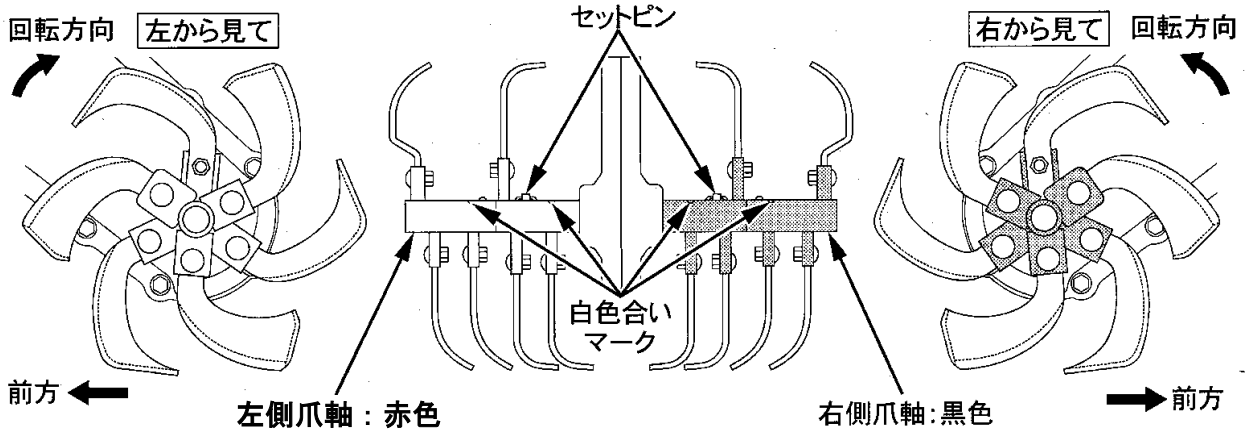
●爪軸の取付け方

・正転耕うん作業時の取付け方



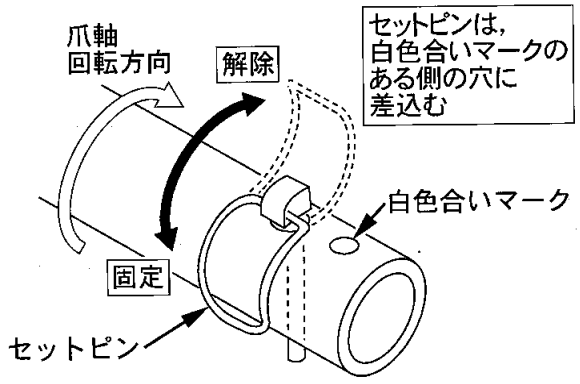
・逆転耕うん作業時の取付け方

＊内側のセットピンを取外し，左右の爪軸を入替えて取付けしてください。



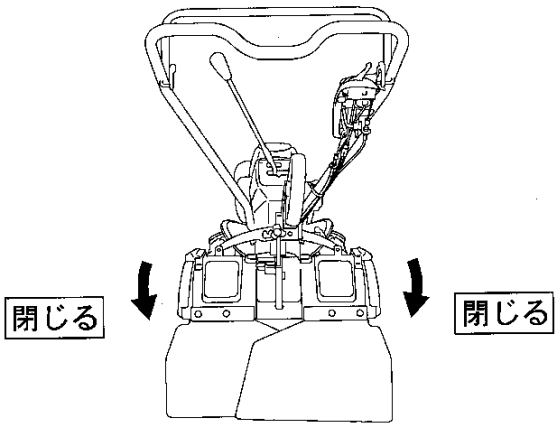
重　要

＊爪軸を取付けた後は，必ずセットピンを下図の方向に取付けて，確実に固定してください。



●カバーの調整要領

カバーは下図のように閉じておきます。

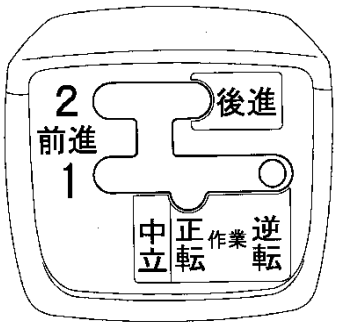


◆うね立て作業

爪を外向きに取付け，逆転で作業を行ないます。必要に応じて，うねを崩さないよう輪距を狭めます。

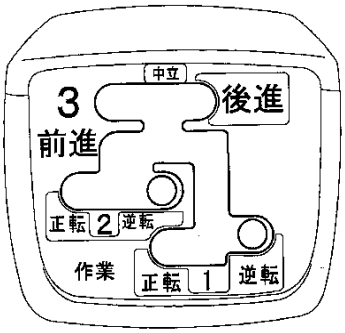
[KR6000-U]

逆転１速のみ作業できます。



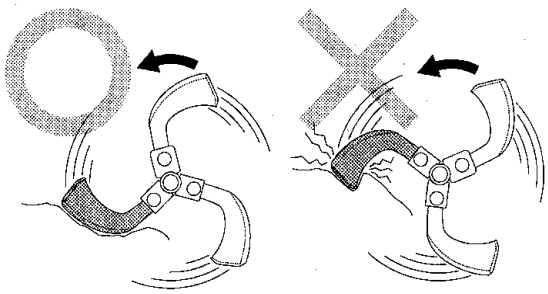
[KR7000-U]

逆転１速，２速で作業できます。



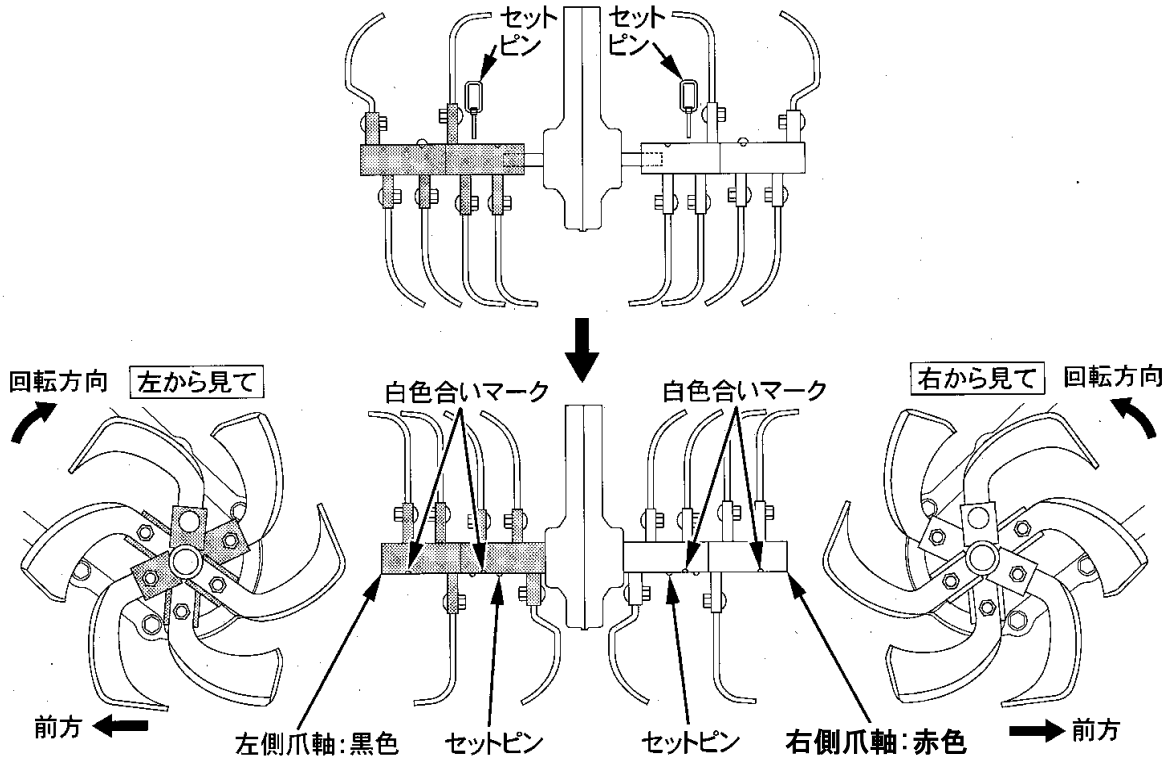
重　要

＊爪軸の取付け方法と逆の回転方向で使用すると，故障や前方への飛び出しの原因となります。



●爪軸の取付け方

溝幅を広くしたい場合　＊内側のセットピンを外し，左右それぞれの爪軸を反転させて取付けてください。

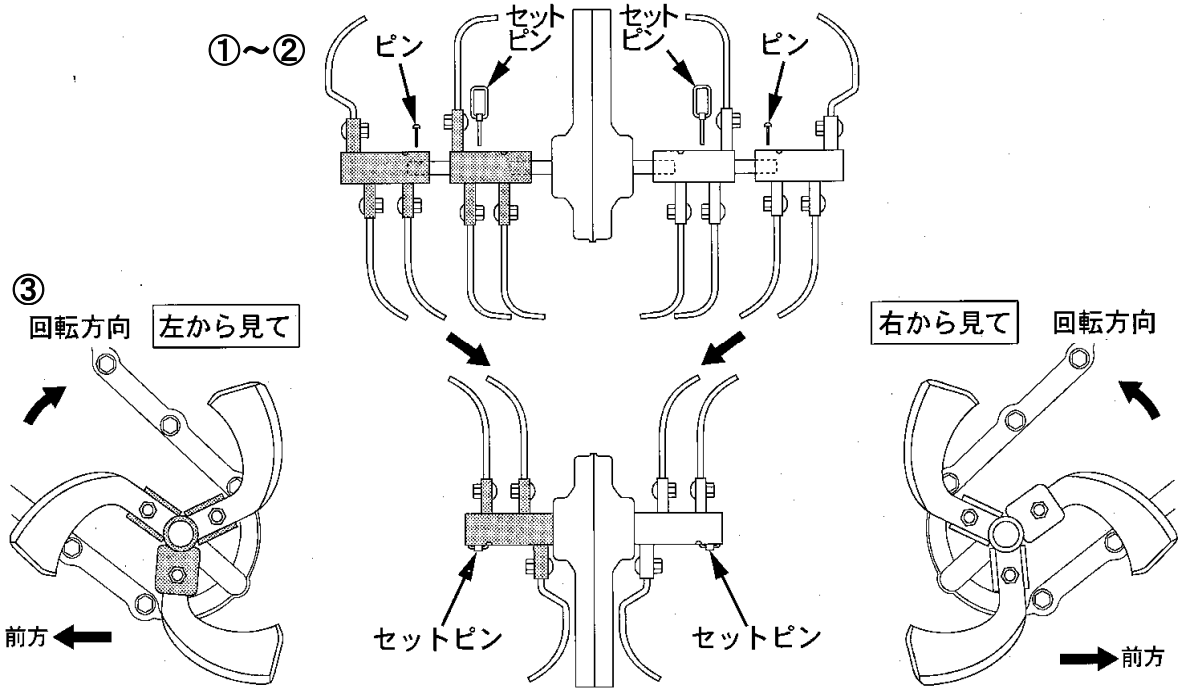


溝幅を狭くしたい場合　＊正転耕うん作業時から爪軸をつけ換える時

①内側のセットピンを取り，爪軸を取外します。

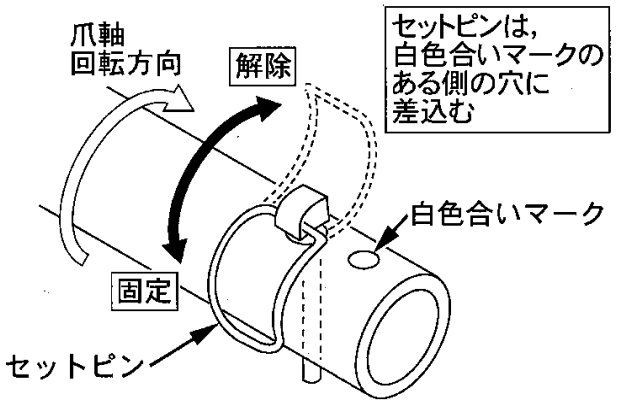
②ピンを外して爪軸を分割します。

③内側の爪軸は使用せず，外側の爪軸だけを反転させて，セットピンで取付けます。



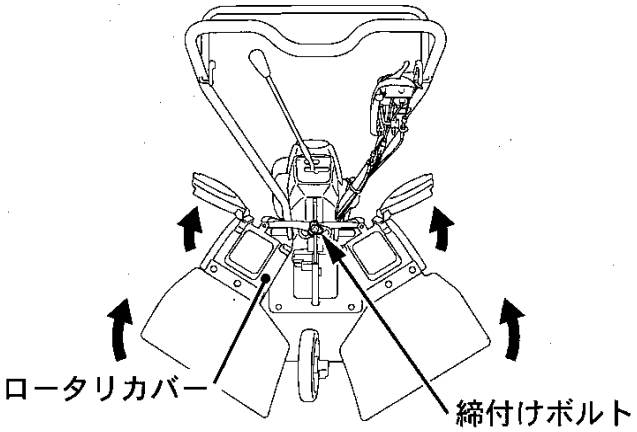
重　要

＊爪軸を取付けた後は，必ずセットピンを下図の方向に取付けて，確実に固定してください。



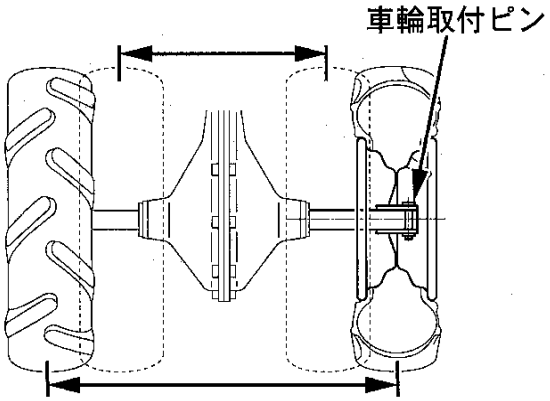
●カバーの調節要領

うねの大きさに合わせて，カバーの開閉角度を調節します。



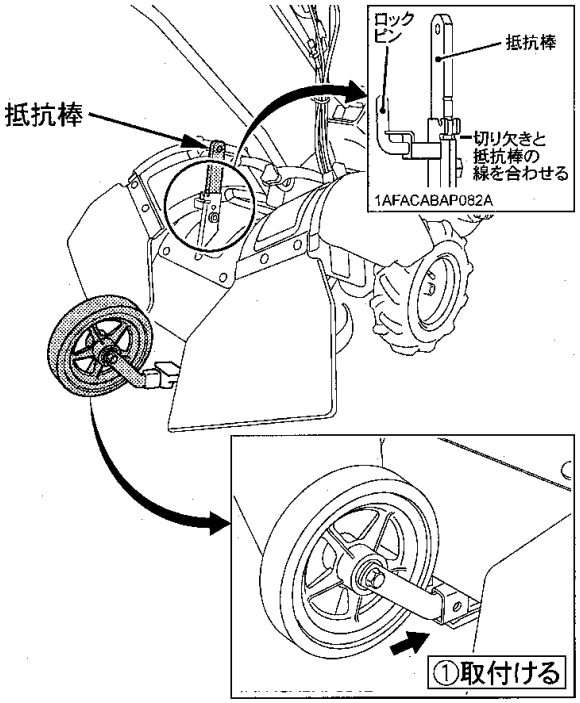
●輪距

必要に応じて，うねを崩さないように輪距を狭めます。（16ページの**[輪距の調節のしかた]**を参照）



●耕深調節

抵抗棒の上から５～６番目の線を切り欠きに合わせロックピンをセットし，移動輪を上向きにセットしてください。



ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

産業物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

＊廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者に相談して，所定の規則に従って処理してください。

日常の手入れ

注　意

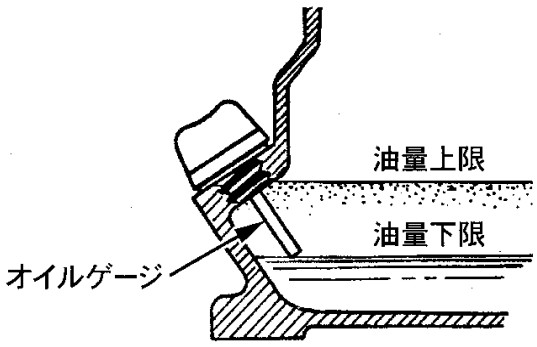
＊給廃油・点検・調整・清掃は，エンジンを停止し，エンジンやマフラが充分に冷えてから行なってください。

＊平坦な場所に機械を安定させて行なってください。

■エンジンオイルの交換

◆給油のしかた

エンジンを水平にし給油口の口元まで入れてください。



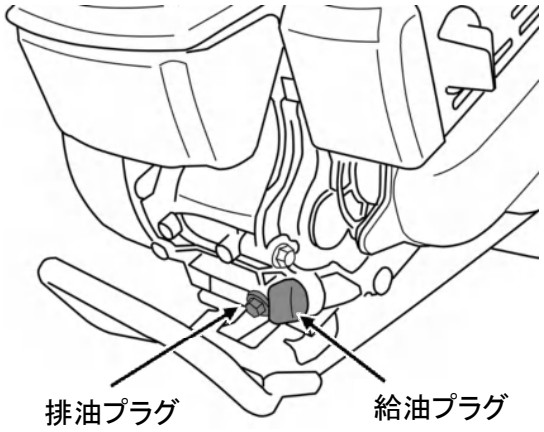
◆排油のしかた

エンジンを水平に安定させプラグを外し，排油してください。この時，必ずオイルパン等で受けてください。

重　要

＊粗悪なオイルを使用しますと，エンジンの寿命を急激に縮めますので，購入先でエンジンオイル10W-30をお求めください。(次項の**オイルの点検と交換表**を参照)

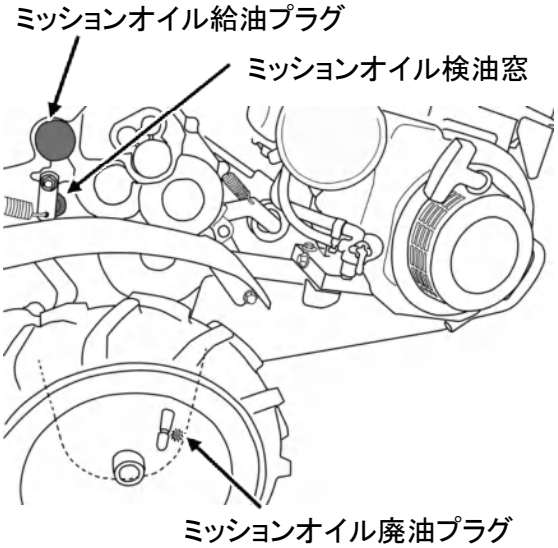
＊排油・検油・給油後はプラグを確実し締めてください。



■ミッションオイルの交換

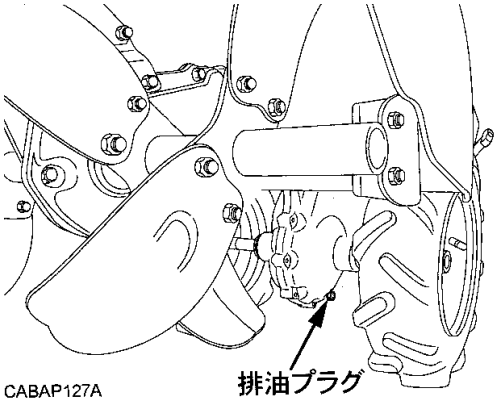
●給油のしかた

エンジンを水平にし検油窓の中間位置まで給油してください。



■排油のしかた

ミッションオイル排油プラグを外して排油します。この時，必ずオイルパン等で受けてください。



重　要

＊粗悪なオイルを使用しますと，機械の寿命を急激に縮めますので，購入先でギヤオイル90#をお求めください。（下の**オイルの点検と交換表**を参照）

＊排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

＊オイルを交換する場合は，まず旧油を排出しますが，ケース内のゴミも同時に排出させるために，できるだけ運転使用後オイルが暖まってる状態の時排出してください。

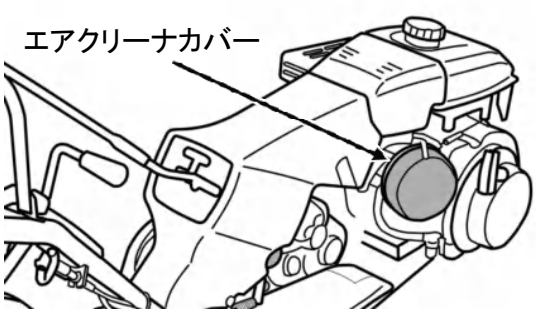
オイルの点検と交換表

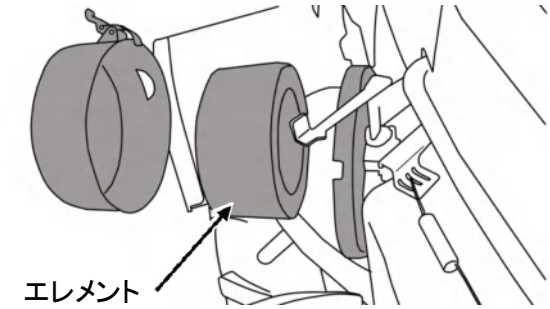
項目 （オイル量）	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回	以後	
エンジンオイル 0.6L	エンジン 水平	20時間 使用後	50時間 使用後	エンジンオイル　10W-30
ミッションオイル 4.5L	エンジン 水平	20時間 使用後	年一回	ギヤオイル　90#

■エアクリーナエレメントの清掃

1. エレメントの取外し方

カバー下側のロックを外してから手前に引き，取外します。





2. エレメントの清掃方法

エレメントが汚れた時は白灯油で洗浄し洗浄後は混合油（白灯油2～4：エンジンオイル1)の中に浸し，点滴しない程度によく振り切って組込んで下さい。但し，ホコリの多い場所では早めに清掃してください。

重　要

＊汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因となります。

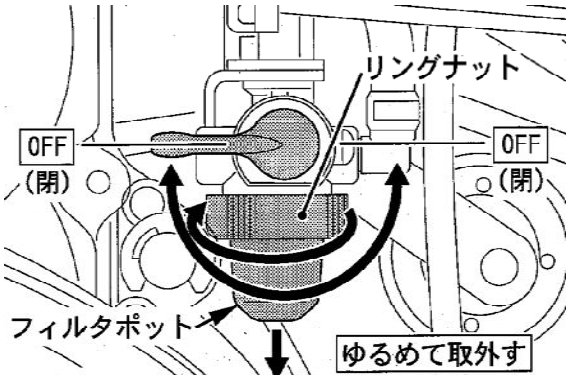
ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

■燃料フィルタの清掃

注　意

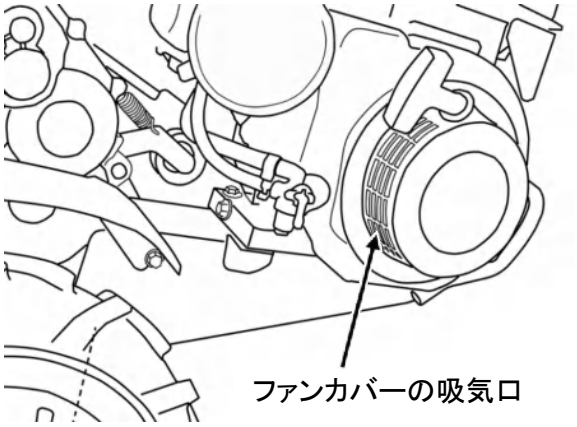
＊取付け後，ガソリンもれが無いか確認してください。

1. 燃料フィルタは，燃料のゴミを取除きます。取除かれたゴミは，ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを［閉］にし，フィルタポットを外し，ポットの底にたまっているゴミや水を捨ててください。
3. 燃料タンク内を点検し，底にたまっている場合は，取除いてください。



■ファンカバーの清掃

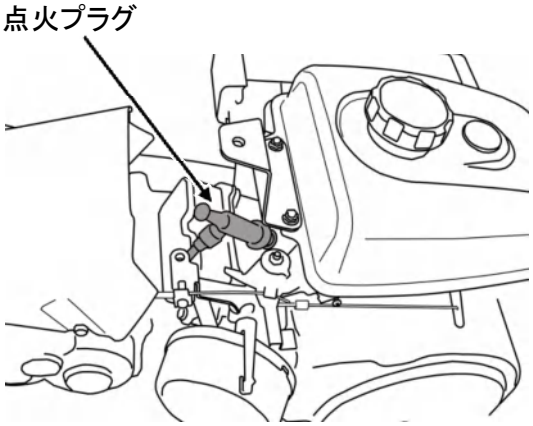
ファンカバーの吸気口は，きれいに清掃します。ゴミやワラクズ等の付着があるとエンジンの加熱や出力低下の原因になります。（ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。）



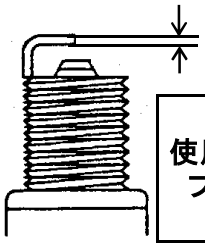
■点火プラグの調整・清掃・交換

注　意

＊高温部が冷えてから行なってください。



1. プラグ用ボックススパナでプラグを外して，清掃します。
2. 電極のすきまが0.6～0.7㎜になるように調節してください。
3. 点検調節は６ヵ月に１回行なってください。



使用点火プラグ	(NGK)BP6HS
	(ﾃﾞﾝｿｰ)W20FP
	(ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ)L66Y

重　要

＊プラグ締付け時は，ネジ山をつぶさないように，はじめに手で絞め込んでから，ボックススパナで締付けてください。

＊調節・清掃してもエンジンが不調なときは，新しいプラグと交換してください。

＊プラグを外したまま始動操作をしないでください。

■主クラッチケーブルの調節

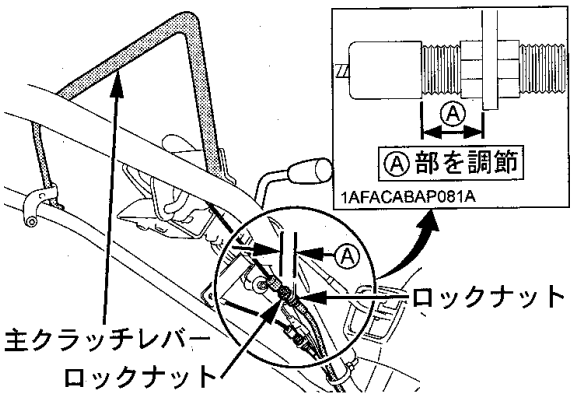
警　告

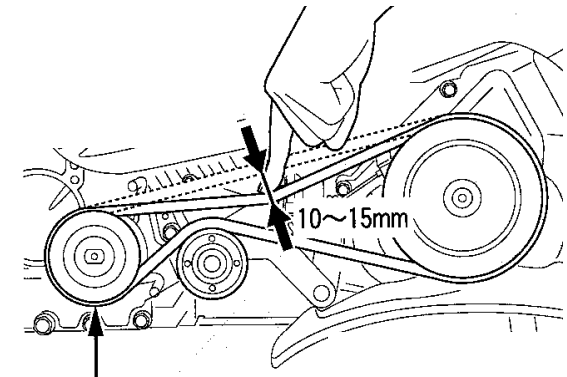
***ベルト調節を行なう場合は，必ずエンジンを停止して行なって下さい。**
***調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けて下さい。巻込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
***エンジンを始動する前に，変速レバーを中立にして下さい。**
***調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないで下さい。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

◆主クラッチケーブルによる調節

主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15㎜たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節して下さい。なお，使用初期はベルトが伸びやすいため，10時間使用後ケーブルを再調節して下さい。

ベルトがスリップする場合	調節金具のＡ部を短くする。
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具のＡ部を長くする。





補　足

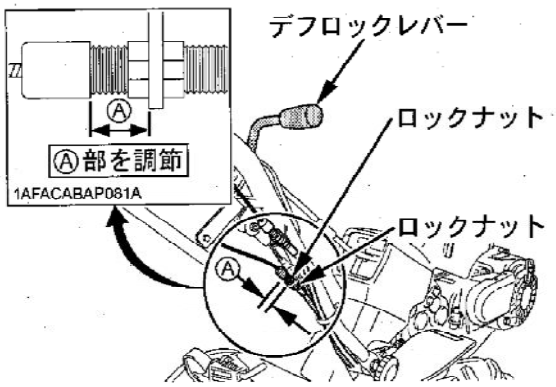
＊ケーブルで調節できない場合は，購入先ご相談下さい。

ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

■デフロックケーブルの調節

デフロックレバーを**[直進]**にしてもロックされにくい場合，又，デフロックレバーを**[旋回]**にしてもロックが解除されにくい場合は，調節金具で調節します。

ロックされにくい	調節金具のＡ部を短くする
ロック解除されにくい	調節金具のＡ部を長くする



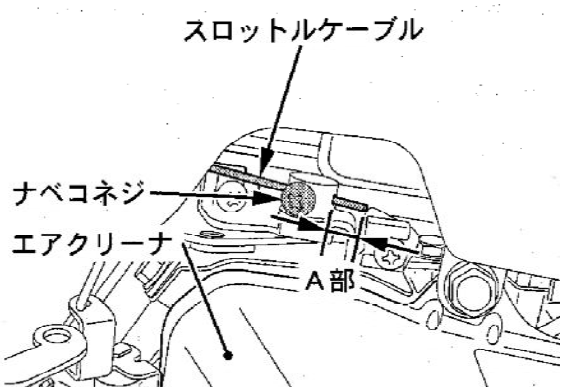
重　要

＊調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けて下さい。

■スロットルレバーの調整

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときは，スロットルケーブルを止めているナベコネジをゆるめて調整します。ケーブルのＡ部が長くなるように調整すると，エンジン回転が高くなります。

調整にあたっては，購入先にご相談ください。



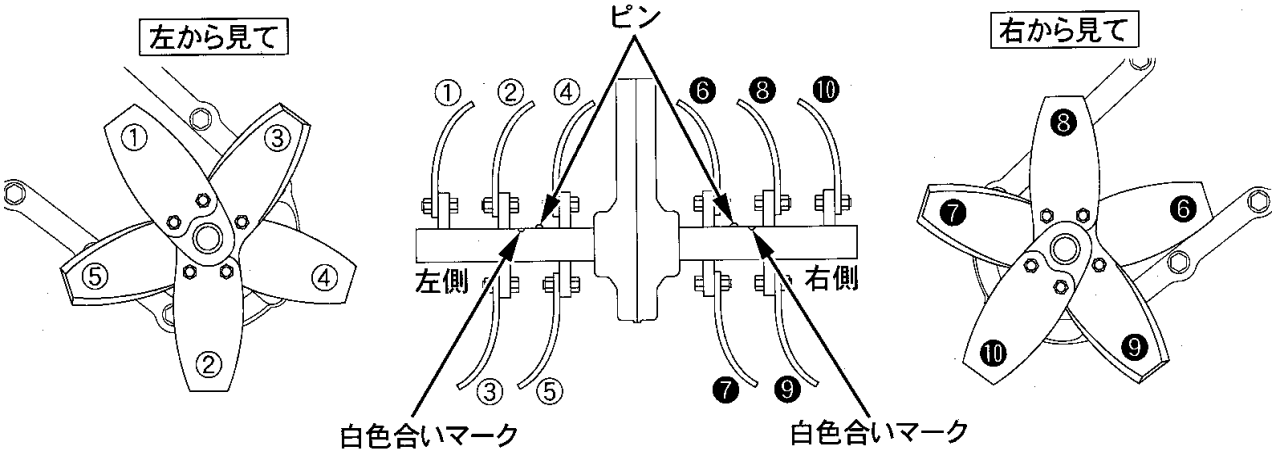
■耕うん爪の取付けかた

警　告

＊爪の交換時は，エンジンを停止してください。
＊サイドカバーを外した時は，危険ですから必ず，爪交換後サイドカバーを確実に取付けてください。
＊爪交換時はロータリに付いた土を落とし，ロータリ部が落下しないようにしてください。
＊上記の手順をおこたると，傷害事故のおそれがあります。

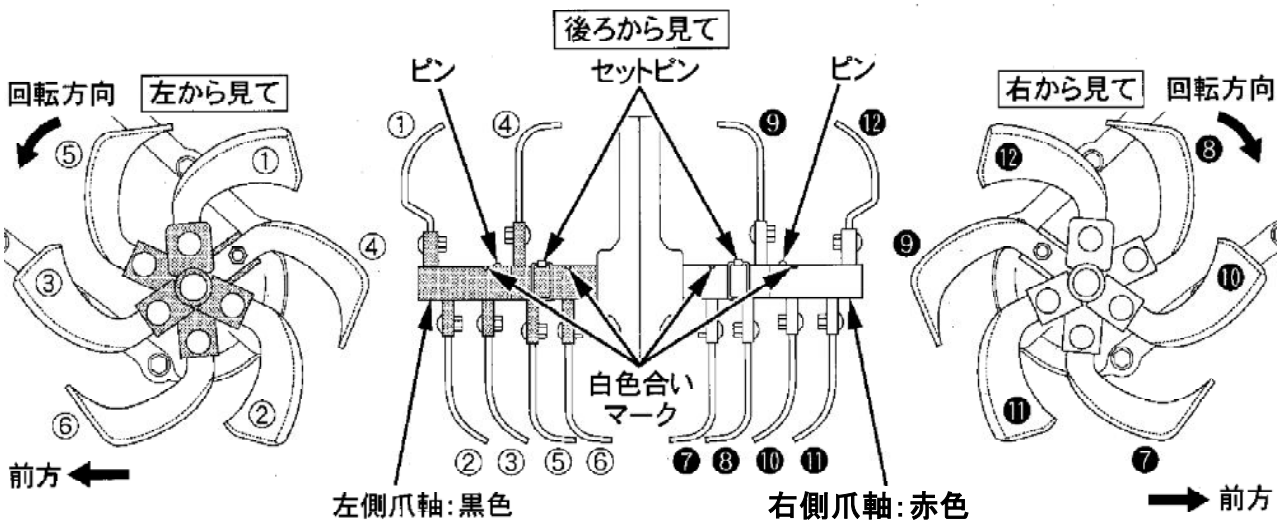
◆耕うん爪は，下図のように取付けます。

[KR6000, KR7000]

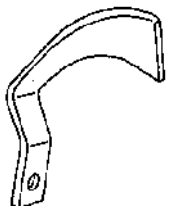
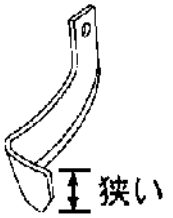


[KR6000-U, KR7000-U]

正転耕うん作業時



（参考）取付爪の形状

図番	[左] ① [右] ⓬	② ③ ⓾ ⓫	④ ⑤ ⑥ ❼ ❽ ❾
形状	ヘンケイツチアゲツメ 	ツチアゲツメ	ナタヅメ 
数量	左右各１本	左右各２本	左右各３本

◆締付けトルク

[KR6000, 7000] (M8)	23.5 ～ 27.4 N・m
[KR6000-U, 7000-U] (M10)	48.0 ～ 55.9 N・m

重　要

＊爪の内外の向き，ならびに種類（U使用）を間違えないようにしてください。

＊作業前には爪の取付けボルト・ナットに緩みがないか確認し、増締めをしてください。

＊爪を交換後は，ボルトを確実に締めてください。

■タイヤの空気圧

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように法で決められています。）

空気圧が高すぎても低すぎても，タイヤの寿命を縮めますから，定期的に空気圧を調べ，適正になるよう調節してください。

適正空気圧	120kPa (1.2kgf/cm²)

空気を入れるには，エアーコンプレッサ，又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

使用後の手入れ

使用後は，必ずその日に清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部はさびないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。
特にファンカバー内にゴミが詰まりますとエンジンの焼付きなどの原因になりますので，よく点検・清掃を行なってください。

重　要

＊水洗いのとき，エアクリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めてください。

重　要

＊コックを開いたままの状態で，保管したり，前に倒したり，また車両で運搬したりすると，エンジン始動が困難となる場合があります。また，クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■長期格納時の手入れ

注　意

＊カバーをかけたり，納屋に格納する時は，火災のおそれがあるため，エンジンが冷えてからにしてください。
＊燃料がこぼれたときは，きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

1. 主クラッチレバーは[切]の位置にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレター・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。（１ヵ月以上使用しないとき）
3. オイルを交換し，各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントを，掃除しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するため，リコイルスタータハンドルを引っ張って，圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ，湿気や草・ワラ及びホコリのない場所に置いてください。
7. さびを防ぐため，爪軸を外し，耕うん軸と爪軸の内側を掃除し，油又はグリスを塗布してください。

重　要

＊ほ場に保管していると，地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

■燃料の抜取り

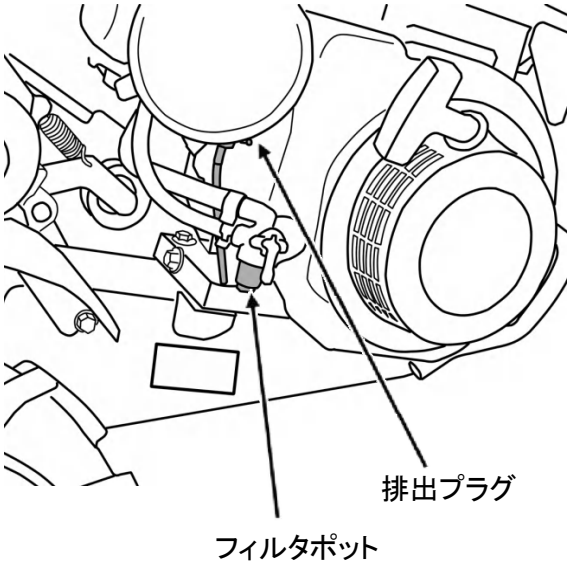
注　意

＊燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。

１ヵ月以上使用しないときは，燃料タンク内もガソリンはポンプなどを使用して抜取り，キャブレター内は排出プラグを緩め，フィルタポットは外して全部抜き取ってください。

重　要

＊燃料をそのままにしておくと，燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し，次の始動が困難になります。



洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. 電気配線部被覆の損傷・断線のより，火災を引き起こすおそれがあります。

2. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

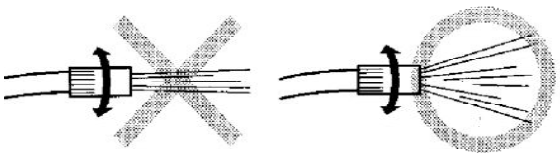
例) (1) シール・ラベルの剥がれ

(2) 電子部品，エンジン・ミッション室内などへの侵入による故障

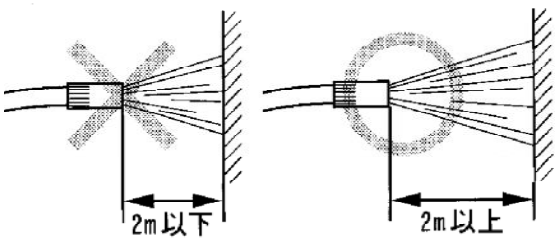
(3) オイルシールなどのゴム類，樹脂部品の破損

(4) 塗装，メッキ面の皮膜はがれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



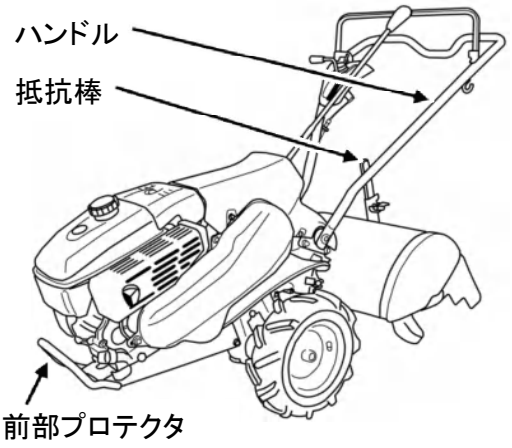
ロータリ専用機を運搬するとき

注　意

＊積込み・積降ろしは，平坦で交通の邪魔のならない安全な場所で行なってください。
＊アユミ板はすべり止めの付いた，機体重量に耐えるもので，トラックの荷台の高さ［１］に対しアユミ板の長さ［４以上］のものを使用し，確実に固定してください。
＊足元に注意し，車速は最低速で上りは［前進］，下りは［後進］で行なってください。
＊途中で主クラッチを切ったり，変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
＊デフロックレバーは［直進］の位置にしてください。［旋回］の位置にすると思わぬ方向に進むことがあり危険です。
＊トラックは，荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。
＊トラックでの運搬時は，タンク内のガソリンの量を，積込み・積降ろしに必要な最低の量とし，残りのガソリンは別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

自動車（トラック）への積込み，運搬

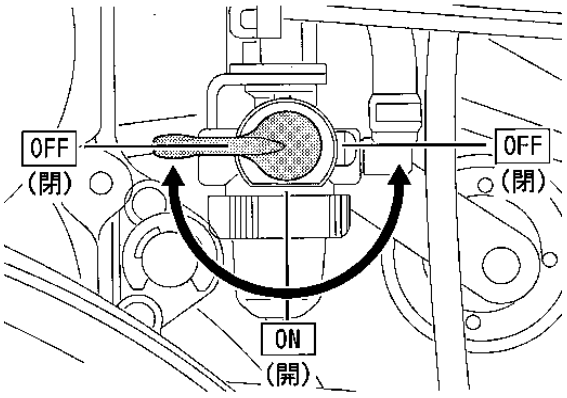
1. トラックを平坦な場所に止め，駐車ブレーキを掛けます。
2. あゆみ板は荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で，上りは前進[**１速**]で，下りは，[**後進**]にします。
4. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
5. 機体にロープを掛ける時は，前部プロテクタ・抵抗棒・ハンドルの３箇所を固定してください。



6. 燃料コックレバーは［**閉**］にします。
7. 雨天時には，エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。

重　要

＊ロープを掛ける時，変速レバーや樹脂カバー，小物部品にロープが触れないように気をつけてください。
破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
＊エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると，雨水や砂ホコリが入り，エアクリーナ性能が低下します。
＊燃料コックを[開]いたまま運搬すると，キャブレター内でガソリンがオーバーフローし，エンジン始動が困難となります。また，クランクケース内にガソリンが流入することもあります。



付表

主要諸元

販売型式名		KR6000	KR6000-U	KR7000	KR7000-U
機体寸法	全長 (mm)	1470		1510	
	全幅 (mm)	620	615	620	615
	全高 (mm)	1085		1060	
機体質量（重量） (mm)					
エンジン	型式名	GB180-LN			
	種類	空冷４サイクル傾斜形横軸ＯＨＶガソリンエンジン			
	総排気量 （L{cc}）	0.181 {181}			
	連続定格出力 (kW{PS}/rpm)	3.4 {4.7} /1800			
	最大出力 (kW{PS})	4.6 {6.3}			
	使用燃料	自動車無鉛ガソリン			
	燃料タンク容量 (L)	3.6			
	始動方式	リコイルスタータ方式			
走行部	車輪（タイヤ）	3.50-7		4.00-7	
	輪距（外幅） (mm)	250(350), 350(450), 400(500)			
	主クラッチ方式	ベルトテンション式			
	操向クラッチ方式	デフ式（ロック式）			
	変速段数 (段)	前進２・後進１		前進３・後進１	
	走行速度 前進 (km/h)	0.94～4.28		1.07～4.89	
	走行速度 後進 (km/h)	0.94		1.07	
	車軸の形状・寸法(mm)	丸軸・直径20			
ロータリ	駆動方式	センタードライブ			
	変速段数 (段)	正転１・逆転１			
	爪軸回転数 (rpm)	正転 226 逆転 264	正転 276 逆転 370	正転 226 逆転 264	正転 276 逆転 370
	耕幅 (mm)	550	330・500	550	330・500
	爪回転径 (mm)	350			
	爪軸の形状・寸法(mm)	丸軸・直径25			
	ロータリカバー形状	固定式	開閉式	固定式	開閉式

※この仕様諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

走行速度一覧表

変　速		KR6000	KR6000-U	KR7000	KR7000-U
		km/h（m/分）	km/h（m/分）	km/h（m/分）	km/h（m/分）
前進１		0.94（15.7）	0.94（15.7）	1.07（17.8）	1.07（17.8）
前進２		4.28（71.3）	4.28（71.3）	1.41（23.5）	1.41（23.5）
前進３		なし	なし	4.89（81.5）	4.89（81.5）
後進１		0.94（15.7）	0.94（15.7）	1.07（17.8）	1.07（17.8）
条件	定格回転数　（rpm）	1800			
	プーリ外径　（mm）	φ75 － φ127			
	タイヤ	3.50-7		4.00-7	

標準付属部品

品　名	数量／台	備　考
ドライバ	1	プラス
プラグボックス	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

付表

主な消耗部品一覧表

品　名	品　番	数　量		備　考
		KR6000 KR7000	KR6000-U KR7000-U	
Ｖベルト（B36）	286350000182000	1		
ケーブル,コンプ(シュクラッチ)	286350000311005	1		
ケーブル,コンプ(デフロック)	286350000317006	1		
コード(ストップスイッチ)	287350000352000	1		
アタマツキピン	000000512270835	2		タイヤ取付用
スナップピン	000000551570800	2		タイヤ取付用
オイルシール	282130000247000	2		車軸
オイルシール	286500000231000	2		耕うん軸
マルピン　M10	282130000419000	2	2	爪軸取付用
スナップピン	000000551571000	2	2	爪軸取付用
セットピン（ツメジク）	286450000454006	—	2	爪軸取付用
ツメ（セイギャク）	286350000453000	10	—	
ツメ（ナタ10，ヒダリ）	057474590207001	—	3	
ツメ（ナタ10，ミギ）	057474590208001	—	3	
ツチアゲツメV/24 ヒダリ	057164636252000	—	2	
ツチアゲツメV/24 ミギ	057164636251000	—	2	
ヘンケイツチアゲツメ　ヒダリ	057164636254000	—	1	
ヘンケイツチアゲツメ　ミギ	057164636253000	—	1	
ツメトリツケボルト	282130000417000	—	12	爪取付用，M10
バネザガネ	000000451270100	—	12	爪取付用，M10
ナット	000000211870100	—	12	爪取付用，M10
ボルト	000000012470820	20	—	爪取付用，M8
ナット	000000211470080	20	—	爪取付用，M8

■エンジンが始動しないとき

原　因	処　置
●始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。（10ページの「運転のしかた」を参照）
●タンクにガソリンを入れたまま１ヵ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し，新しいガソリンを入れる。
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しい物と交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
●チョークを引いた（閉じた）状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し（開き）リコイルを引くか，点火プラグを外して乾燥させる。
●エンジン停止後，燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり，車両で運搬したためキャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
●エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
●点火プラグの火花が弱い，飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または，新しい物と交換する。

■エンジン回転が上がらない，不安定，出力が不足するとき

原　因	処　置
●エンジンが暖まってもチョークを引いた（閉じた）まま運転している。	チョークを戻す（開く）。
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
●エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
●スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調整する。

■エンジンが振れる，異音が発生する。

原　因	処　置
●エンジン取付けボルトが緩んでいる。	取付けボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
●ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドル締付ボルトを締め直す。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは，購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

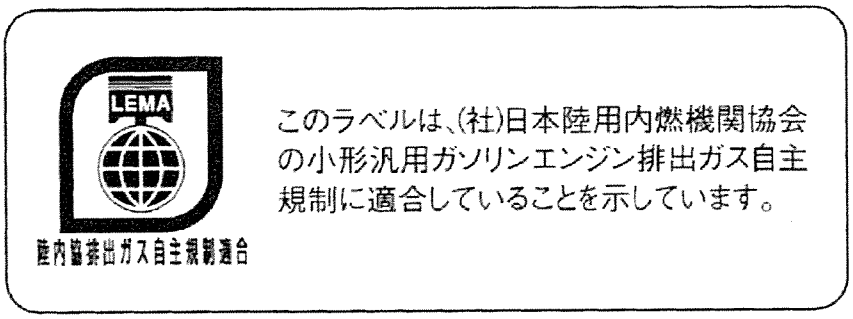
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてお相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと，機械の不調や，機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され，徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので，安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと，作業効率の低下や機械の寿命を短くする原印となります。



品番　287350000851000

・製品のご相談は下記の販売店へ

ヘルパー
関東農機株式会社

本社工場／本社営業所　〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627
鏡石工場／福島営業所　〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133
盛岡工場／東北営業所　〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119
九州営業所　〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760